

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
近現代日本史A<1>	伊勢 弘志	2
近現代日本史A<2>	伊藤 悟	6
近現代日本史A<3>	大江 洋代	10
近現代日本史B<1>	大町 健	14
近現代日本史B<2>	伊勢 弘志	18
近現代日本史B<3>	伊勢 弘志	22
戦後の日本と世界<1>	富田 武	26
戦後の日本と世界<2>	伊勢 弘志	30
戦後の日本と世界<3>	伊藤 悟	34
現代日本の地理<1>	小田 宏信	38
現代日本の地理<2>	小金澤 孝昭	42
現代世界の地理<1>	伊藤 修一	46
現代世界の地理<2>	加賀美 雅弘	50
国際教養総合講義(国際文化交流論)	久保 和朗	54
国際教養総合講義(保守主義とリベラルの思想的対立からみたアメリカ政治)	中岡 望	58
国際教養総合講義(世界経済と国際金融)	篠山 善行	62
近現代アジア史A<1>	久保田 善丈	66
近現代アジア史A<2>	土肥 歩	70
近現代アジア史B<1>	久保田 善丈	74
近現代アジア史B<2>	土肥 歩	78
近現代欧米史A<1>	佐伯 哲朗	82
近現代欧米史A<2>	中島 幹人	86
近現代欧米史B<1>	佐伯 哲朗	90
近現代欧米史B<2>	中島 幹人	94
歴史トピックス(中東地域史の諸問題)	佐々木 紳	98
歴史トピックス(日本女性史)	伊集院 葉子	102
アジア地域理解	小田 宏信	106
ヨーロッパ地域理解	太西 雅一郎	110
北米地域理解	小田 隆史	114
イスラーム世界理解	堀内 正樹	118
地域理解トピックス(地元学実践演習)	小田 隆史	122
地域理解トピックス(地域づくりの時代)	小金澤 孝昭	126

科目名	近現代日本史 A <1>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1301491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

### テーマ・概要

現代の日本社会の前提でもある19世紀から20世紀にかけての国際環境と社会環境を講義する。世界の潮流と国内の歴史が密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の蓄積を踏まえた複眼的視角から、脱一国的な歴史理解を求めて近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。  
 各国の相互の関係性から世界情勢を把握する政治学と、政局を体系的に評価する政策決定論および議会政治を中心とする政治史との双方から日本近現代史を学習する。

### 到達目標

1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その上で現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。
2. 脱一国的な視点を得ることで、現在の社会・外交問題などについても多面的な分析ができる。
3. 当時の社会環境や思想潮流が、どれほど各時代に影響しているかを知ること、国際的な視点によって近現代史の理解ができるようになる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	「近代の世界と東アジア - 近代外交のはじまり」 講義計画を確認した上で、近代の幕開けについて学習する。「鎖国」とは何であったのか？ 2度の黒船来航の意味とは何かを考える。	
	シラバスをよく読むこと。 講義計画と課題を確認すること。	60分
第2回	「『万国公法』とアジアの法意識 - 『帝国』の世界観」 「徳治」を中心とした東アジアに「法治」が持ち込まれた意義と影響を考える。帝国の世界観とは、どのようなものかを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第3回	「岩倉使節団の派遣 - 帝国主義の世界・『現実主義』」 西洋の国家制度を導入するために派遣された岩倉使節団が学習したものは国際政治の要諦であった。帝国主義世界のルールとは何かを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分

第4回	「日清戦争と国際法 - 『三国干渉』と『力の政治』」 国際情勢の中で行われた日清戦争を日本の外交政略の観点から評価する。「力の政治」による国際秩序と、日本に対する影響を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第5回	「英・露『グレート・ゲーム』と『海上覇権論』」 帝国主義的対立として世界規模で展開された「英露対決」を踏まえて、近代日本が如何に関係し、また影響を与えたのかを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第6回	「世界戦略の中の日露戦争と条約改正」 日清戦後の東アジア情勢を踏まえて、日露戦争が世界の対立構図に与えた影響を確認し、「世界の中の日露戦争」を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第7回	「『韓国併合』と日露戦後経営」 日露戦争後の東アジア情勢と、日本の外交政略・内政をそれぞれ学習する。列強に仲間入りしようとする日本が選択した進路を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第8回	「第一次世界大戦と『理想主義』の世界潮流」 「国際連盟」の設立にともなう秩序転換を学習し、戦争が法概念によって違法化される時代となったことを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第9回	「ロシア革命とシベリア出兵」 大戦の渦中に激動する世界情勢の変化を踏まえ、日本がどのように向き合ったのかを確認する。第8回の講義と併せて「新秩序」・「新外交」の世界的意義を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分

第10回	<p>「『ワシントン体制』と軍縮の国際秩序」 それまでの帝国主義秩序を転換した国際秩序が東アジア情勢にどのように影響したのかを確認し、この後の日本への影響を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第11回	<p>「日本人移民の生活史 - ディアスポラ」 移民の歴史から近代日本における人々の生活実態を考える。日本人が移民した時代と暴力的転地の構造を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第12回	<p>「関東大震災 - 非常時の市井と社会主義運動」 関東大震災が起きた社会の背景・時代状況を踏まえ、災害の政治的・社会的影響を学習する。その上で、自助・公助・共助について考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第13回	<p>「デモクラシーと陸軍」 大正時代に流行した「改造ブーム」・「天文ブーム」・「オカルト・ブーム」から当時の世相を読み解く。社会的流行の中で、「国家改造」の要求が堆積していく過程を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第14回	<p>「『普通選挙』と『治安維持法』の成立」 男子普通選挙の実施が、当時の日本社会においてどのように考えられ、受け入れられたのかを確認し、国内情勢と外交の関連性を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第15回	<p>「二大政党とネガティブ・キャンペーン」 かつての日本における二大政党制の時代を学習し、その特徴・弊害を考える。また、軍部台頭の原因を確認する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分

#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評価を行います。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、日清戦争の歴史的意義を理解している。
- 2、日露戦争の歴史的意義を理解している。
- 3、日本の軍事戦略と、その変遷を理解している。
- 4、世界大戦による国際秩序の変化と意義を説明できる。
- 5、近代世界と日本の関わりを論述できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

近現代日本史B〈2〉・〈3〉、戦後の日本と世界〈2〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

伊勢弘志『近代日本の陸軍と国民統制』（校倉書房、2014年）。  
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）。  
戸部良一『逆説の軍隊』（中央公論社、1998年）。  
酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史 A <2>		
教員名	伊藤 悟		
科目ナンバー	1301491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

### テーマ・概要

幕末から大正デモクラシー期までを扱う。明治維新論、憲法体制論、天皇制自由主義体制論の3つの視点でこの時期の時代像を明らかにする。

### 到達目標

歴史の転換期の特徴を理解し、人は体制の転換という事態にどう対応するのかを理解する。そして一つの体制がさまざまなサブシステムから成り立っていることを理解する。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	「歴史を見る視点」 イントロダクションとして歴史とは何か、歴史学とはいかなる学問かを提示する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第2回	「幕藩体制」 明治維新で打倒の対象とされた幕藩体制とはいかなる特徴を持つ体制なのかを考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第3回	「鎖国・割拠制の解体」 幕藩体制の3つの柱のうちの鎖国と割拠制という2本がどのようにして解体され、いかなるものとなったかを考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。

第4回	「身分制の解体①～徴兵令～」 徴兵令を材料に身分制の解体作業を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第5回	「身分制の解体②～秩禄処分～」 最終的な身分制解体作業について考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第6回	「明治維新論」 前回までの講義を踏まえて明治維新时期とはどのような時代であったかを考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第7回	「自由民権運動」 政治的民主化要求としての自由民権運動の意義を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第8回	「明治憲法体制」 市民革命失敗例の憲法としての明治憲法体制の特徴を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第9回	「初期議会」 初期議会における政府と民党の攻防を特徴を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。

第10回	「和協の詔勅」 初期議会の終わりの意味を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第11回	「明治から大正へ」 明治末の日本の特徴を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第12回	「大正政変」 代替わりと政変の関係を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第13回	「天皇制自由主義体制」 1920年代の日本の体制を、天皇制自由主義体制という概念で考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。次の授業までにノートを見返しておくこと。	ノートの見返しに60分。
第14回	「自由主義の社会」 1920年代の日本社会の特徴を考察する。	
	しっかり講義に参加しノートをとること。試験の準備をすること。	試験の準備に120分程度。
第15回	講義内容に基づく試験を行う。	
	試験準備を行う。	試験準備に120分

#### 授業の方法

講義形式で行う。必要に応じ映像資料を利用することもある。

#### 成績評価の方法

学期末にテストを行い、その成績で評価を行う。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校までの日本史の知識で十分であるが、高校時代に日本史を履修していない場合には、「岩波新書」の近現代シリーズを読んでおくことが望ましい。

#### テキスト

特になし

#### 参考書

特になし。講義を通じてその都度指示する場合もある。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代日本史 A <3>		
教員名	大江 洋代		
科目ナンバー	1301491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

### テーマ・概要

〈テーマ〉幕末・明治時代通史を天皇のあり方から考えます。来年、今上天皇が生前退位します。ではそもそも天皇とは歴史的にどのような存在なのでしょう。天皇がいる国、日本について考えます。これを通じ、今起きている問題を歴史的に考え、今起きていることに自分なりの考えをもって向き合う知性を鍛えます。

〈概要〉「権力はないが権威がある」「万世一系」「象徴」……。皆さんは中学、高校と天皇についてどう学んできたでしょうか。そして今、天皇についてどう思いますか。これまでの皆さんの天皇に対する知識や感性を踏まえつつ、近代日本になぜ天皇が必要とされたのか、政治家、民衆は天皇をどう見ていたのか、それが時代によってどう変化していったのか、天皇という分析視角を通じて明治期における政治と社会の双方の変化を通史的に考察していきます。

### 到達目標

〈前提〉歴史とは教科書や年表に出ていることがすべてではありません。国や立場、時代によって歴史の見方は様々です。その歴史的な説明の仕方は無数にあります。

〈到達目標〉その多様性を知り、自ら史料や先行研究をひもとき、何が真実であったのか自分なりの歴史像を説明できる力を身につけます。歴史を通じて、国際的で柔軟で理論的な思考力を養うことを目的とします。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生が歴史を学ぶ意味</li> <li>・天皇から明治維新、明治時代を見通す意味</li> <li>・ミニレポート執筆①「明治維新とは何か」、②「天皇とは何か」</li> </ul>	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	20
第2回	<p>歴史と今はどのようにつながっているのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今話題となった教育勅語を読みます。その制定経緯、運用、なぜ廃止されたのか、そしてなぜ今また話題に上るのか、時代をつなげて考えることを通じて、歴史を見る目を磨きます。</li> </ul>	
	【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。	60
第3回	<p>明治維新とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に書いていただいたミニレポートを元に、フィードバックを行います。受講者それぞれの多様な歴史の見方を踏まえることで、歴史的にもの考えるためのウォーミングアップを行います。</li> </ul>	
	【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。	60

第4回	<p>天皇とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に書いていただいたミニレポートを元に、フィードバックを行います。受講者それぞれの多様な歴史の見方を踏まえることで、歴史的にものを考えるためのウォーミングアップを行います。</li> </ul>	
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第5回	<p>古代から今日までの天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代の天皇のあり方を通史的に見ることで、各時代に天皇が果たした役割を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第6回	<p>光格天皇登場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の天皇のかたちを考えるためには、幕末に登場した光格天皇の理解が欠かせません。内憂外患の時代に登場した光格天皇の歴史的意味を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第7回	<p>公議輿論と朝廷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、幕府はペリー来航の際、外交対応を朝廷に報告する必要があったのでしょうか。明治期以降の議会政治に至る、スタート地点としてこの出来事を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第8回	<p>尊皇攘夷と孝明天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕末に吹き荒れた「尊皇攘夷」の風潮を当事者の孝明天皇はどのようにとらえていたのでしょうか。これを通じて天皇の個性が実際の政局に与える影響を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第9回	<p>朝幕政権と孝明天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月18日の政変以降における幕府の政権運営を天皇との関係で見えていきます。幕府の一部と一体化した天皇を倒幕派はどう見ていたのか考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60

第10回	<p>維新政権と明治天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発足した維新政権は、その唯一の正当性をいえる天皇をどのようなかたちとしようと考えたのか考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第11回	<p>明治政府と明治天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治10年代に起きた天皇のかたちをめぐる議論を通じて、近代天皇制の様々な可能性について考えます</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第12回	<p>国民と明治天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々に天皇はどう浸透したのか、人々は天皇をどう見ていたのかを検討し、国民と天皇の関係について考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。試験の準備を行う。</p>	120
第13回	<p>近代天皇制の設計図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治憲法における天皇の位置づけを検証することを通じ、明治期立憲制の意味を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。試験の準備を行う。</p>	120
第14回	<p>論述式の到達度確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子機器以外持ち込み可です。試験問題は初回に示お示しします。</li> </ul>	
	<p>【予習】 試験準備を行う。 【復習】 試験解答を振り返る。</p>	120
第15回	<p>試験の振り返り、講評。</p>	
	<p>【復習】 自分以外の参加者の解答を振り返り、自らの歴史像を豊かにする。</p>	60

#### 授業の方法

毎回リアクションペーパーを任意で提出していただきますので、前回のリアクションペーパーのリプライを30分ほど行います。全員分のリアクションペーパー（学籍番号、名前は消します）を貼付したプリントを配布します。その後、その日のテーマに入ります。まず、その日のテーマのいわゆる「通説」について概説します。その後、「通説」を様々な角度から検証するため、外国では同じテーマがどのように語られているのか、また一次史料や最新の研究成果についてお示しします。ここでは史料等のプリントを配布します。映像や音声も積極的に利用していきます。皆さんの興味関心で動く授業ですので、進度に関してはシラバス通りに進まないこともありますことをご了承いただければ幸いです。

#### 成績評価の方法

試験100パーセント。  
出席はとりませんが、ミニレポート（第1～2回任意提出）及び、リアクションペーパーのおもしろさに基づく授業への貢献度（第3～13回任意提出）によって加点していきます。

#### 成績評価の基準

- ・ 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
- ・ 歴史には、国や立ち位置によって様々な見方があることを理解しているか。
- ・ 多様な歴史像を踏まえた上で、先行研究や史料を使って自分なりの歴史像を説明できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、みなさんの考えたことによって動く授業です。したがって毎回自分の意見を作ることを求めます。考えることをいとわないみなさん、互いにインスパイアしあうことを楽しみにできるみなさんをお待ちしています。

#### テキスト

特にありません。

#### 参考書

参考書は授業中に適宜指示します。また、授業のなかで関連資料を配付します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史B <1>		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1401491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**

20世紀前半の日本の50年間は、日露戦争、第一世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と戦争の時代といっただけでよいでしょう。なぜ日本は、中国さらにはアメリカをはじめとする連合国と戦争するに至ったのか、他の選択肢はなかったのかを考えると、注目すべきは、第一次大戦から満州事変の十数年間の日本は、基本的には国際平和を求める協調外交の時代だったことです。なぜ戦争に至ったかは、なぜ協調外交を生かすことができなかったのかという問題でもあります。これらの問題を基本的な史料に基づいて考えることを授業のテーマとします。

**到達目標**

DP1（教養の修得）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）の実現のために以下の五点を到達目標とします。

- (1) 外交の転換とその国際的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (2) 外交の転換とその国内的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (3) 協調外交と金融恐慌の関係について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (4) 満州事変の前提とその結果について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (5) 日中十五年戦争について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 授業の内容、進め方を説明し、課題を提示する。	
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認する。 〔復習〕 授業の内容、目的、課題を確認する。	60分
第2回	第1次世界大戦と日本の中国進出 第1次世界大戦は初めての世界戦争であり、日本はそのなかで中国に二十一カ条要求によって進出をはかったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第3回	ベルサイユ体制と民族自決 第1次世界大戦後、世界は民族自決を認めた平和維持をはかるベルサイユ体制が成立したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分

第4回	外交の転換とワシントン体制 太平洋地域でのワシントン体制の成立にともなって、日本も二十一カ条要求を放棄し、対中国協調をはかる外交の転換をおこなったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第5回	政党内閣の成立と外交の転換 日本の外交の転換の背景には、国内における戦争と軍拡への不満にもとづく政党内閣の成立があることを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第6回	大正デモクラシーと外交の転換 政党内閣の成立は、大正デモクラシーの運動をともなっていたが、そこには民本主義とならんで民族自決を認める動きがあったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第7回	協調外交 外交の転換は協調外交として結実したが、中国においては民族運動が進み、北伐によって日本の権益が危うくなったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第8回	金解禁 協調外交によって中国市場をめざした日本が、一方で金解禁を必要としたことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第9回	金融恐慌 北伐への不干渉政策をとる政府に対する不満をもつ勢力によって、金融恐慌が拡大していったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分

第10回	積極外交と協調外交 積極外交の政府のもとでの中国干渉は失敗し、協調外交をとる政府にもどるが、中国における民族運動の盛り上がりによって日本の中国における権益の危機が現実化したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第11回	満州事変 関東軍による満州事変によって満州国が作られたが、国際連盟から脱退し、国際的に孤立したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容をまとめる。	60分
第12回	日中戦争 日本と中国の対立は激化し、日本は中国との全面戦争に突入したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第13回	アジア太平洋戦争 日中戦争の行き詰まりのなかで、米英との対立も激化し、日本が第2次世界対戦の一部であるアジア太平洋戦争に突入し、敗戦へと向かっていったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第14回	まとめ (1) 授業前半の課題についてまとめる。	
	〔予習〕 授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕 まとめを確認する。	120分
第15回	まとめ (2) 授業後半の課題についてまとめる。	
	〔予習〕 授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕 まとめを確認する。	120分

#### 授業の方法

最初に授業の課題を提示します。最初に前回の復習をし、史料プリントを配り、板書をしながら授業をすすめます。何回か毎に、質問・意見を提出してもらう機会をつくります。学期の最後に、授業の課題についての筆記試験をおこないます。

#### 成績評価の方法

授業中に提出した質問・意見30%、学期末の筆記試験70%によって評価します。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに以下の点に着目して評価します。

- (1) 外交の転換とその国際的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (2) 外交の転換とその国内的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (3) 協調外交と金融恐慌の関係について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (4) 満州事変の前提とその結果について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (5) 日中十五年戦争について歴史過程とその因果関係を理解し、正解に論述できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本近現代史A、戦後の日本と世界

#### テキスト

特になし。

#### 参考書

高校日本史教科書  
岩波新書シリーズ日本近現代史  
成田龍一著『大正デモクラシー』  
加藤陽子著『満州事変から日中戦争へ』  
吉田裕著『アジア・太平洋戦争』  
『日本の時代史』19～23巻、吉川弘文館  
その他の参考文献については随時授業中に指示します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	近現代日本史B <2>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1401491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>戦前から戦後社会までの「日本現代史」をテーマとして、国内政治史と国際情勢（冷戦構造とその変容）を中心に、敗戦後に解体された国内体制（断絶面）と、戦後の体制転換を迎えながらも残された戦前の政治的影響（連続面）を講義する。</p> <p>戦後日本がどのような国際環境の中で戦争を行い、戦後復興を遂げたのかを知り、またそれは、社会や国民にどのような影響を与えたのかを理解することを目的とする。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>1. 現在の日本社会や世界情勢の前提となった戦後史を理解できる。</p> <p>2. 戦前～戦後史を通史的に把握することで、日本の政治外交について多面的な分析ができる。</p> <p>3. 専門的知識を獲得したうえで、国際問題・社会問題にもなっている歴史認識問題や歴史教育・教科書問題を考えていくことができる。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	「なぜ現代史を学ぶのか？」 講義計画を確認する。日本の近現代史が国際情勢の一環として進んできたことを考え、「なぜ今この勉強をするのか？」を確認する。		
	シラバスをよく読むこと。 講義計画と課題を確認すること。	60分	
第2回	「第二次世界大戦に至る国際情勢と国際秩序」 第一次大戦後の国際秩序の形成と、日本がそのルールを受容した過程を学習する。		
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分	
第3回	「国際情勢と満州事変 - 陸軍による世界秩序への挑戦」 国際社会における新外交の展開と、国内における政党政治から、軍部台頭の背景を考える。		
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分	

第4回	<p>「満州事変の影響と国際連盟の脱退 - テロ横行の時代」  満州事変から日中戦争に至る経過を国内の政治過程とともに考える。満州事変がどのように引き起こされたか？また国内ではテロが頻発した背景を、それぞれ学習する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第5回	<p>「日中戦争の全面展開と近衛文麿内閣」  近衛内閣の対中方針と日中戦争の全面化を学習し、揺れ動く外交方針から戦争の国内的要因を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第6回	<p>「『枢軸世界』の創出 - 日独伊三国軍事同盟の締結」  日独防共協定から日独伊三国軍事同盟に至る経過を確認し、防共協定と三国軍事同盟の意義の違いを学習して、英米との対立が決定づいた要因を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第7回	<p>「衝撃の『独ソ戦』と外交戦略」  近衛内閣の外交および三国同盟締結と、武力南進の関係性を考える。「枢軸同盟」の根拠となった「松岡外交」を学習し、その影響を確認する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第8回	<p>「アジア・太平洋戦争の諸相 - 『大東亜共栄圏』と戦場」  戦線を拡大する日本軍と戦場の諸相を学習する。戦争までの日米間における交渉過程や、兵士にとっての戦場体験を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第9回	<p>「敗戦への道と昭和天皇の『聖断』 - 戦争の被害と実態」  戦争の加害・被害・実態を学習し、昭和天皇の「聖断」と同時代の戦争認識を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分

第10回	「戦争とメディア - 戦前から戦後の復興まで」 ラジオ・テレビ・映画などメディア展開の特徴から各時代の文化を知り、メディアを史料化することで同時代の戦争認識・生活意識に迫る方法を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第11回	「戦後世界と冷戦構造 - 『逆コース』と朝鮮戦争」 冷戦構造による戦後世界の環境と、日本の占領政策との関係を考える。朝鮮戦争による経済復興の意味を理解する	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第12回	「『東京裁判』 - 戦犯と訴因から見る戦後体制」 「戦犯」を裁いた「東京裁判」から、占領政策と戦後社会との関係を考える。「東京裁判」の特徴とその性格を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第13回	「サンフランシスコ講和条約 - 単独講和と『日米安保体制』」 サンフランシスコ講和条約と日本の再軍備の関係を、冷戦下の国際関係の中で考える。日本に対する占領政策と、その転換を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第14回	「『55年体制』の成立 - 戦後国内政治」 国際社会に復帰した日本と、その後に成立した「55年体制」を学習する。戦後の国内政治がどのように開始され、如何に評価すべきかを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第15回	「国際政治と重大転機 - 日本の戦前・戦後」 国際情勢の中を歩んだ日本の近現代史を振り返り、総括を行う。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	120分

#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評定を行います。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、20世紀の国際秩序と、その転換について理解・説明ができる。
- 2、アジア・太平洋戦争における日本の軍事行動の意味を、国際秩序に関連付けて説明できる。
- 3、日本の敗戦に至る経過と、「ポツダム宣言」の成立過程を理解・説明できる。
- 4、終戦後の占領政策の経過と性格を理解・説明できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史A〈1〉、戦後の日本と世界〈2〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

伊勢弘志『石原莞爾の変節と満州事変の錯誤』（芙蓉書房、2015年）。  
吉見義明・横関至編『資料日本現代史』（大月書店、1981年）。  
辻清明・林茂『日本内閣史録』5～6（第一法規出版、1981年）。  
山田朗『日本は過去とどう向き合ってきたか』（高文研、2013年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史B <3>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1401491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

### テーマ・概要

戦前から戦後社会までの「日本現代史」をテーマとして、国内政治史と国際情勢（冷戦構造とその変容）を中心に、敗戦後に解体された国内体制（断絶面）と、戦後の体制転換を迎えながらも残された戦前の政治的影響（連続面）を講義する。  
戦後日本がどのような国際環境の中で戦争を行い、戦後復興を遂げたのかを知り、またそれは、社会や国民にどのような影響を与えたのかを理解することを目的とする。

### 到達目標

1. 現在の日本社会や世界情勢の前提となった戦後史を理解できる。
2. 戦前～戦後史を通史的に把握することで、日本の政治外交について多面的な分析ができる。
3. 専門的知識を獲得したうえで、国際問題・社会問題にもなっている歴史認識問題や歴史教育・教科書問題を考えていくことができる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	「なぜ現代史を学ぶのか？」 講義計画を確認する。日本の近現代史が国際情勢の一環として進んできたことを考え、「なぜ今この勉強をするのか？」を確認する。	
	シラバスをよく読むこと。 講義計画と課題を確認すること。	60分
第2回	「第二次世界大戦に至る国際情勢と国際秩序」 第一次大戦後の国際秩序の形成と、日本がそのルールを受容した過程を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第3回	「国際情勢と満州事変 - 世界秩序への挑戦」 国際社会における新外交の展開と、国内における政党政治から、軍部台頭の背景を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分

第4回	<p>「満州事変と国際連盟の脱退 - テロ横行の時代」  満州事変から日中戦争に至る経過を国内の政治過程とともに考える。満州事変がどのように引き起こされたか？また国内ではテロが頻発した背景を、それぞれ学習する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第5回	<p>「日中戦争の全面展開と近衛文麿内閣」  近衛内閣の対中方針と日中戦争の全面化を学習し、揺れ動く外交方針から戦争の国内的要因を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第6回	<p>「『枢軸世界』の創出 - 日独伊三国軍事同盟の締結」  日独防共協定から日独伊三国軍事同盟に至る経過を確認し、防共協定と三国軍事同盟の意義の違いを学習して、英米との対立要因を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第7回	<p>「衝撃の『独ソ戦』と外交戦略」  近衛内閣の外交および三国同盟締結と、武力南進の関係性を考える。「枢軸同盟」の根拠となった「松岡外交」を学習し、その影響を確認する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第8回	<p>「アジア太平洋戦争の諸相 - 『大東亜共栄圏』と戦場」  戦線を拡大する日本軍と戦場の諸相を学習する。戦争までの日米間における交渉過程や、兵士にとっての戦場体験を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第9回	<p>「敗戦への道と昭和天皇の『聖断』 - 戦争の被害と実態」  戦争の加害・被害・実態を学習し、昭和天皇の「聖断」と同時代の戦争認識を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分

第10回	「戦争とメディア - 戦前から戦後の復興まで」 ラジオ・テレビ・映画などメディア展開の特徴から各時期の文化を知り、メディアを史料化することで同時代の戦争認識・生活意識に迫る方法を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第11回	「戦後世界と冷戦構造 - 『逆コース』と朝鮮戦争」 冷戦構造による戦後世界の環境と、日本の占領政策との関係を考える。朝鮮戦争による経済復興の意味を理解する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第12回	「『東京裁判』 - 戦犯と訴因から見る戦後体制」 「戦犯」を裁いた「東京裁判」から、占領政策と戦後社会との関係を考える。「東京裁判」の特徴とその性格を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第13回	「サンフランシスコ講和条約 - 単独講和と『日米安保体制』」 サンフランシスコ講和条約と日本の再軍備の関係を、冷戦下の国際関係の中で考える。日本に対する占領政策と、その転換を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第14回	「『55年体制』の成立 - 戦後国内政治」 国際社会に復帰した日本と、その後に成立した「55年体制」を学習する。戦後の国内政治がどのように開始され、如何に評価すべきかを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第15回	「国際政治と重大転機 - 日本の戦前・戦後」 国際情勢の中を歩んだ日本の近現代史を振り返り、総括を行う。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	120分

#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評価を行います。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、20世紀の国際秩序と、その転換について理解・説明ができる。
- 2、アジア・太平洋戦争における日本の軍事行動の意味を、国際秩序に関連付けて説明できる。
- 3、日本の敗戦に至る経過と、「ポツダム宣言」の成立過程を理解・説明できる。
- 4、終戦後の占領政策の経過と性格を理解・説明できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史A〈1〉、戦後の日本と世界〈2〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

伊勢弘志『石原莞爾の変節と満州事変の錯誤』（芙蓉書房、2015年）。  
吉見義明・横関至編『資料日本現代史』（大月書店、1981年）。  
辻清明・林茂『日本内閣史録』5～6（第一法規出版、1981年）。  
山田朗『日本は過去とどう向き合ってきたか』（高文研、2013年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	戦後の日本と世界 <1>		
教員名	富田 武		
科目ナンバー	1301491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

### テーマ・概要

この講義は、学生の大多数が受験の際に日本史、世界史のいずれを選択しても殆んど習ってこなかった第2次世界大戦後の歴史を学び、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、併せて専門科目学習のベースを作ってもらうことを狙いとしている。特徴は日本史、世界史（大学では西洋史、東洋史）という区分をせず一体のものとして構成されている点、DVDを用い、映像によって理解をリアルなものにする点である。半期15回の授業では時間が絶対的に不足しており、概説的なものにならざるを得ないが、受講者がこれをステップに戦後史をさらに自分で学習するようになることを望む。

### 到達目標

自分たちの生きている時代を歴史的に、戦後72年の流れの中で理解できるようにする。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	映像学習① 『日本国憲法の誕生』（NHK、2007年）を観る。	
	参考書①雨宮著、②武田著、③吉見著を開講前に読むことが望ましい。	270分
第2回	日本の敗戦 第2次世界大戦とアジア太平洋戦争を総括し、日本敗戦の過程（ポツダム宣言から受諾まで）と結果（領土喪失、引揚等）を概観し、占領をめぐる内外の力学を理解する。	
	テキスト石川1及び中村1-1を読む。	60分
第3回	占領下改革と新憲法 占領統治の仕組み、GHQ主導下で行われた非軍事化と民主化の諸改革を学習する。日本国憲法制定過程を米国と吉田首相の意図、世論の動向に即して理解し、「押しつけ」だったか否かを考える。	
	石川2～3及び中村1-2を読む。	60分

第4回	戦後復興と朝鮮戦争 政党政治の復活、経済復興の諸政策とGHQの強力な指導を概観する。国際情勢の冷戦への移行、これに伴う占領政策の転換、朝鮮戦争とその日本の経済・政治に与えた影響を理解する。	
	石川4～7及び中村1～3～5を読む。	60分
第5回	日本の独立と55年体制成立 サンフランシスコ講和会議をめぐる国内世論、同条約と日米安全保障条約の内容を把握する。55年体制の成立、自民党による一党優位の内政と日ソ国交回復、国連加盟等の対外関係を理解する。	
	石川8～11及び中村1～6～7を読む。	90分
第6回	映像学習② 安保闘争と高度成長を中心とした映像を観る。	
	できれば映画『Always 三丁目の夕日』を観て人々の暮しぶりを知る。	60分
第7回	安保闘争から高度成長へ 冷戦の緩和という国際情勢の中で日米安保条約が強化され、空前の反対運動が起こったこと、しかし岸退陣後の池田首相が所得倍増を掲げて人々の関心を経済と生活に向けたことを理解する。	
	石川12～14及び中村2～1～2を読む。	60分
第8回	ヴェトナム戦争と日本 冷戦下で世界はキューバ危機とヴェトナム戦争という”熱戦”を経験し、日本は同戦争で米国に協力、日韓条約を結び、返還された沖縄の基地を米軍に自由使用させて、中ソと対立したことを理解する。	
	石川15～16及び中村2～4～5を読む。	60分
第9回	高度成長の矛盾と石油危機 高度経済成長が「公害問題」などを伴い、石油危機で終焉し、経済政策の転換が求められたこと、60年代末には先進諸国で学生運動が激発し「新しい社会運動」を生んだことを理解する。	
	中村2～2～3を読む。	60分

第10回	アジアの動向と「田中政治」 70年代初期の欧州デタント（緊張緩和）、アジアの米中・日中和解、末期の新冷戦とイスラム台頭といった国際情勢、日本では田中角栄の政権と「院政」＝利益誘導政治の完成を理解する。	
	石川17～19及び中村3-1～3を読む。	0分
第11回	映像学習③ 80年代日本の「繁栄」と米ソ超大国の対立と改革を観る。	
	とくになし。	60分
第12回	新自由主義と日本の大国化 80年代はサッチャーに始まり米国、西独、日本が経済は新自由主義、政治は保守主義の政策をとり、日米間では経済摩擦の一方、政治的には緊密だったこと、中曽根の「戦後政治の総決算」を理解する。	
	石川21～22及び中村3-4～5を読む。	60分
第13回	ペレストロイカと冷戦終結 ソ連の社会主義体制が内部矛盾と西側との競争圧力に耐えられずに改革に乗り出したこと、言論の自由や民族自決の運動がついに体制自体を崩壊させたことを理解する。冷戦終結の諸結果も考える。	
	参考書④『ソ連史』第6章を読む。	60分
第14回	バブル崩壊と55年体制崩壊 バブルが崩壊し日本が長期不況に陥ると同時にグローバル化に直面し、政治面では55年体制が崩壊して連立政権時代に入ったこと、北朝鮮問題や慰安婦問題、中国の経済・軍事大国化で日本にナショナリズムが台頭したことを理解する。	
	石川25～26及び中村4-1～2、4を読む。	90分
第15回	まとめ：「文明の衝突」か「文明の持続」か イスラム過激派のテロ、中東難民の発生と欧州による排斥の動きという「文明の衝突」の一方、地球温暖化やフクシマ原発事故等で「文明の持続」も深刻な問題になっている。それを考えることでまとめとする。	
	とくになし。	60分

#### 授業の方法

時間不足を考慮してレジュメ、補助教材をプリントとして毎回配布する。講義内容をよりよく理解するためには下記テキストの指定部分を予習してくること。なお、教員が自分の体験を交えて語る「余談」も理解を助けるので、耳を傾けてほしい。映像学習の日は感想文を書いてもらう。

#### 成績評価の方法

期末試験を基本とするが、DVDの感想文提出、その内容も成績評価の20%程度を占める。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

最低限の予備知識として、『もういちど読む山川日本史』『もういちど読む山川世界史』を、とくに日本史・世界史ともに未修または一方未修の学生は必ず読んでおくこと。

#### テキスト

- ・石川真澄『戦後政治史 新版』岩波新書、780円 ISBN4-00-430904-2 C0231
- ・中村政則『戦後史』岩波新書、840円 ISBN4-00-430955-7 C0221

#### 参考書

- ①雨宮昭一『占領と改革』岩波新書、700円、ISBN978-4-00-431048-8 C0221
  - ②武田晴人『高度成長』岩波新書、780円、ISBN978-4-00-431049-5 C0221
  - ③吉見俊哉『ポスト戦後社会』岩波新書、700円、ISBN978-4-00-431048-8 C0221
  - ④松戸清裕『ソ連史』ちくま新書、800円、ISBN978-4-480-06638-1 C0222
- このほか新書を中心にした参考文献リストを3回にわたって配布する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

簡単な質問は授業終了後に教室で受け付けるが、立ち入った質問や相談はメールまたは名誉教授室で対応する。

科目名	戦後の日本と世界 <2>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1301491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要	
<p>現代社会をテーマとして、国内政治史と国際情勢（国際政治と現代思想）を中心に講義する。</p> <p>戦後日本がどのような国際環境を進んできたのかを知るために、政治学や現代思想の潮流にも着目し、それらが現在の社会においてもどれほど影響しているのかを考える。</p> <p>また、歴史学で得た「道具としての知識」を実社会で活用するために、「考える力」を訓練できるように「歴史学的思考法」について考える。</p>	

到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後の各時期の世界情勢・国際環境を知り、国際的な視点で現代史を理解する。</li> <li>2. 「歴史学的思考」とは何かを理解する。</li> <li>3. 現在の社会問題や国際問題の様々な場面で、歴史的な理解を踏まえた討議ができる。</li> <li>4. 自ら問いを立て、自己の考えを発信できる。</li> </ol>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	<p>「終戦過程と『聖断』 - ポツダム宣言と原爆」</p> <p>ポツダム宣言成立に至る過程と、日本が受諾する過程とを検討し、原爆投下の背景にある国家間関係から終戦を考える。</p>	
	<p>シラバスをよく読むこと。</p> <p>講義計画と課題を確認すること。</p>	60分
第2回	<p>「朝鮮戦争と再軍備への逆走」</p> <p>冷戦の顕在化により、日本は自由主義陣営の中で共産主義に対抗するとの役割が新たに与えられた。転換される対日占領政策をGHQ内部の対立とともに学習する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。</p> <p>復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分
第3回	<p>「自民党の結成と『55年体制』」</p> <p>国際環境を背景に社会党が伸張すると、それに対抗するために保守系議員が合同して自由民主党が誕生した。自民党が過半数を制する「55年体制」の成立を学習する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。</p> <p>復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60分

第4回	「安保改定と『戦後帝国主義』」 「55年体制」の立役者であった岸信介の政権において展開された安保改定問題を学習し、内政・外交それぞれにおける戦前からの連続性を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第5回	「高度成長とキューバ危機」 戦後復興を遂げた日本の経済規模は戦前の二倍に達した。高度成長は当時までの国際情勢とアメリカの経済戦略とに大きく関わっている。そうした国際環境を把握する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第6回	「ロストウ路線とベトナム戦争」 アメリカの経済戦略であるロストウ路線と近代化論を学習し、その戦略において引き起こされたベトナム戦争と、日本への経済的・社会的影響を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第7回	「オイルショックと高度成長の終焉」 それまで世界中に安価な燃料として提供された中東の石油は、中東戦争を背景とした価格操作によって値段を急騰させた。日本にも甚大な影響が表れた石油危機と、高度成長の終焉を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第8回	「相互依存の世界 - 戦後理念外交の展開」 ベトナム戦争に敗退したアメリカの戦略は、ロストウ路線から転換されたことでアジアへの介入を減少させた。一方、日本はASEAN外交を展開し、アジア諸国との新たな関係を築いていく。理念外交の展開を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第9回	「新自由主義の世界」 貿易問題を背景とした日米間の摩擦と、その関係が再編されていく過程を把握し、バブル経済を背景に展開されていく「新自由主義」の影響を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分

第10回	「冷戦終結とバブル崩壊後の日本」 ロシアにおけるペレストロイカ、中国における天安門事件など、社会主義国の民主化傾向を経て冷戦終結に至る潮流を背景に、「55年体制」が崩壊する過程を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第11回	「『55年体制』崩壊後の日本政治」 バブル崩壊の影響が続く経済状況の中で自民党は分裂し、新党が乱立する政治状況が生まれる。「政党と政治」、「日本型選挙制度」について考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第12回	「戦争責任論と歴史認識問題」 自民党・社会党・新党さきがけの三党連立政権において出された「村山談話」と、日本における戦争責任論を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第13回	「グローバリゼーションの世界潮流」 世界的潮流としてのグローバリゼーションは、国家の経済政策と国土とを乖離させる「脱国土化」の傾向を有している。こうした脱国土化による地域変容と「新自由主義」の関係性を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第14回	「『文明の衝突』と『ネオ・コン』の登場」 グローバリゼーションの進展と「文明の衝突」論を学習する。また、アメリカ共和党政権による「ネオ・コン」の性格を把握し、その日本への影響として現れた「自己責任論」についても考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60分
第15回	「現代日本の政治と国際関係」 戦後政治の総括として、日本の政治外交を中心に国際関係・国際問題を振り返る。現在の私たちがいる環境としての日本が世界の中にあること、とりわけ東アジアにあることの意味や影響を歴史的に考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	120分

#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評定を行います

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、国際情勢の転換点と、その意義を説明できる。
- 2、国際情勢の変化と、その意味を説明できる。
- 3、アメリカの冷戦戦略・経済政策と、日本の外交の関連性を説明できる。
- 4、戦後世界の国際秩序を理解したうえで、日本の戦後史の歩みを説明・評価できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史A〈1〉、近現代日本史B〈2〉・〈3〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

吉見義明・横関至編『資料日本現代史』（大月書店、1981年）。  
升味準之輔『現代政治』（東京大学出版、1983年）。  
辻清明・林茂『日本内閣史録』5～6（第一法規出版、1981年）。  
山田朗『日本は過去とどう向き合ってきたか』（高文研、2013年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	戦後の日本と世界 <3>		
教員名	伊藤 悟		
科目ナンバー	1301491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
アジア太平洋戦争末期から55年体制成立期までを扱う。終戦工作以降の自由主義体制への回帰をキー概念として、その最終的な挫折の結果成立する55年体制の意味を考察する。			

<b>到達目標</b>			
歴史の転換期の特徴を理解し、人は体制の転換という事態にどう対応するのかを理解する。そして見直しの対象とされている戦後体制とはいかなるものかを考察し、今後の日本を展望する。			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	「終戦工作」 サイパン島陥落以降の敗戦必死の状況下での支配層の国体護持の行動の意味を探る。		
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。		ノートの見返しに60分
第2回	「ポツダム宣言」 日本が受諾し戦後改革実行の根拠となったポツダム宣言の内容を検討する。		
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。		ノートの見返しに60分
第3回	「占領管理機構」 日本の占領方式と占領管理機構の特徴を明らかにする。		
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。		ノートの見返しに60分

第4回	「日本の民主主義論」 新憲法制定において、日本政府案が採用されずGHQ案が押し付けられた原因を当時の日本の支配層の民主主義観から明らかにする。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第5回	「新憲法制定」 GHQが作成した憲法草案の内容と、新憲法制定期の政治的対抗関係を明らかにする。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第6回	「新憲法体制」 憲法制定を受け、いわゆる中道政権のもとでの新憲法体制の整備と経済再建について考察する。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第7回	「経済改革」 財閥解体・労働改革・農地改革の3つからなる経済改革の意味を考察する。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第8回	「戦争責任論」 第2次世界大戦後の新たな戦争責任論について考察し、敗戦直後からの日本国内での戦争責任論の特徴を明らかにする。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第9回	「占領政策の転換」 1948年以降のアメリカの占領政策の転換が日本に何をもたらしたかを明らかにする。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分

第10回	「朝鮮戦争」 1950年6月に始まる朝鮮戦争が日本に与えた影響を考察する。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第11回	「再軍備論争」 朝鮮戦争を機に始まる再軍備の意味と、その際おこなわれた吉田茂と芦田均による再軍備論争を意味を検討する。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第12回	「講和」 サンフランシスコ平和条約によって講和が実現するに至る過程と、独立の意味を考察する。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第13回	「自由主義的反動期」 50年代前半においてなされた自由主義体制への最後の回帰の試みの特徴を明らかにする。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。次の授業までにノートの見返しをする。	ノートの見返しに60分
第14回	「55年体制の形成」 岸内閣成立とともに始まる55年体制とはいかなる体制であるかを明らかにする。	
	しっかりと授業に参加しノートをとる。試験の準備をする。	試験準備に120分
第15回	講義内容に基づく試験を行う。	
	試験準備。	試験準備に120分

#### 授業の方法

講義形式で行う。必要に応じ映像資料を利用することもある。

#### 成績評価の方法

学期末にテストを行い、その成績で評価を行う。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校までの日本史の知識で十分であるが、高校時代に日本史を履修していない場合には、「岩波新書」の近現代シリーズを読んでおくことが望ましい。

#### テキスト

特になし

#### 参考書

特になし。講義を通じてその都度指示する場合もある。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代日本の地理 <1>		
教員名	小田 宏信		
科目ナンバー	1201491040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

#### テーマ・概要

国際教養科目のコア科目です。国際化や情報化の進展の中で、日本国内の諸地域は大きな変容を強いられてきました。この科目・クラスでは、経済地理学の成果に基づいて、主に産業活動の側面から、日本の地域システムと諸地域の変貌について考えます。第5回までは人口や産業などの事象毎にその地域的展開と変動について考え、第7回以降は、大都市圏、地方圏の順に、各地域の成り立ちと現代的課題、現代の地域づくりについて考えていきます。

#### 到達目標

DP1（教養の修得）およびDP3（他者との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。  
グローバル経済の下におかれた、日本の諸産業の地域展開、大都市圏と地方圏の実情について経済地理学の視点から理解し、自地域と他地域の比較の上で今日の地域問題を考察できる。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	グローバル化のなかの地域と経済	
	・テキストの該当章節を読む。	60
第2回	日本の人口集積とその動向	
	・前回の復習。 ・テキストの該当章節を読む。	60
第3回	農業生産の動向	
	・前回の復習。 ・テキストの該当章節を読む。	60

第4回	流通産業の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第5回	工業生産の動向(1): 基礎素材産業と加工組立型産業	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第6回	工業生産の動向(2): 地場産業/ここまでのまとめ	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第7回	東京大都市地域(1): 首都東京の形成	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第8回	東京大都市地域(2): 京浜(東京)工業地帯	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第9回	東京大都市地域(3): 現代の東京問題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60

第10回	京阪神大都市地域：大阪の成り立ちと経済的再生	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第11回	周辺地域1 沖縄地方：経済的自立を考える	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第12回	周辺地域2 東北地方：「分工場経済」の問題と東日本大震災	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第13回	周辺地域3 四国地方：豊かな風土と過疎問題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第14回	中間地域の諸問題：北関東・甲信越・東海	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第15回	経済地域政策の動向と展望	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	120

#### 授業の方法

テキストに極力準拠し、その内容に肉付けしつつ、配布資料を適宜参照して講義形式で進めます。写真教材やビデオ教材も用います。なお、欠席の場合も配布資料は原則として取り置きしません。

#### 成績評価の方法

平常点30%、期末試験70%。（別途、任意提出の課題の提出を加味するが、締め切り日以降は一切受け付けない）

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、達成度により評価する。

- (1) 日本の経済地域を空間的なシステムとして理解できているか。
- (2) 日本の主要産業部門の地域的展開についての基礎的事項を理解できているか。
- (3) 国際的大競争の下で日本の諸地域が抱える諸問題と対応について理解できているか。
- (4) 基本的な地域統計・統計地図を読み取って考察することができるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の諸地域や東京が抱える諸問題について、ある程度の問題意識を持っていることが望ましい。

#### テキスト

『日本経済地理読本〔第9版〕』竹内淳彦・小田宏信編，東洋経済新報社，2300円程度，ISBN978-4-492-10031-8  
【必ず第9版を準備してください】

#### 参考書

適宜，紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代日本の地理 <2>		
教員名	小金澤 孝昭		
科目ナンバー	1201491040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**

①「戦後73年の日本地理」  
 ②本年度は、現代日本の地域的特徴（地域システム）を、それがどのように形成されてきたのかに注目して考察する。  
 戦後の日本の地域システムの時期区分としては、1960年までの復興期、1973年までの高度経済成長期、1990年までの安定成長期、1991年以降のバブル崩壊・低成長期、産業空洞化時期、2001年以降の新自由主義、少子高齢化期として捉えて考察を進める。

**到達目標**

現代の少子高齢化社会、グローバル化社会における日本経済社会の地域的特徴（地域システム）と、それがどのように作られてきたのかを、戦後の社会変化から理解することが到達目標である。これは、戦後史と経済社会の地理的展開の両面を学ぶことでもある。また、基本的な地理的技法（地図読解、主題図の作成と読解、地域統計の作成と読解等）を学ぶ。  
 この講義は、就職試験にもよく出題され、現代日本理解の常識でもある「戦後日本社会の変化」を、社会や経済の変化だけではなく、それらが時系列的に、空間的にどのように具体的に展開したかについて学ぶものである。

**授業の計画と準備学修**

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス 地理学とは何か？地理学は身近な地域の変化を明らかにすることと、その身近な地域の変化を生み出す日本全体の地域変化の両方を考察する学問であること学ぶ。【地図の読解】	
	復習 講義時に配布した土地利用図の彩色とワークシートを完成させる。	60
第2回	「戦後73年の日本地理の基礎」① 戦後日本の社会の変化を学ぶ（～東京オリンピック） 高度経済成長期のDVDを鑑賞する。	
	復習 DVDの内容についてのワークシートを完成させる。	40
第3回	「戦後73年の日本地理の基礎」② 戦後日本社会の時期区分を行なう。人口や国民総生産などの統計指標を使って、日本経済社会の動向についてのグラフを作成する。（地域統計の作成）	
	復習 グラフを完成させる。 予習 前の時間に配布した文書資料、写真資料を読んでワークシートを完成させる。	40

第4回	<p>「戦後73年の日本地理」の基礎③ 戦前の日本の経済・社会を学ぶ。 『米と繭の経済』『都市と農村』日本は戦後、ゼロから復興したのだろうか？戦前の経済社会との連続性はないのか？</p>	
	<p>予習 テキスト第一章(「戦後」の成立)を熟読し、ワークシートを完成させる</p>	40
第5回	<p>「戦後73年の日本地理」 ①戦後復興の日本経済と社会 戦後復興の経済社会の地域システムを学ぶ。民主改革と傾斜生産方式の経済、占領下の経済システムの変化を理解する。 □</p>	
	<p>レポート課題①戦後の経済・社会・地域問題に関する文献を読む。 復習 第一レポートの作成。</p>	60
第6回	<p>「戦後73年の日本地理」 ②戦後復興と地域のスラップ&amp;ビルド エネルギー革命期の地域変化を学ぶ。朝鮮特需、エネルギー革命、多目的ダム開発、集団就職の実態を理解する。</p>	
	<p>復習 第一レポートの作成。</p>	60
第7回	<p>「戦後73年の日本地理」 ③産業構造の転換と太平洋ベルト地帯 高度経済成長期の産業構造の転換と産業立地・配置を理解する。</p>	
	<p>復習 京葉工業地帯の埋め立て状況を示す土地利用図の作業を行う。 予習 テキスト(第二章「戦後」の基本的枠組みの定着)と配布資料を熟読する。</p>	60
第8回	<p>「戦後73年の日本地理」 ④高度経済成長期の大人口移動を考える。 人口移動の仕組みと過疎問題、過密問題や都市問題・住宅問題について考察する。(主題図の作成)</p>	
	<p>復習 配布資料に基づいて主題図を作成する。</p>	30
第9回	<p>「戦後73年の日本地理」 ⑤産業構造の差転換と安定成長期への突入。 ドルショック・オイルショック以降の産業構造再編。重厚長大から軽薄短小の時代へ。</p>	
	<p>予習 テキスト(第三章「戦後」のゆらぎ)と配布資料を熟読する</p>	40

第10回	「戦後73年の日本地理」 ⑥地方への工場分散と東京一極集中 工場・事業所の地方分散の実態とその要因と東京一極集中の形成メカニズムを学ぶ。	
	レポート②「地方の分散が東京一極集中を招く」『世界』伊東論文を読む。 復習 第二レポートの作成。	100
第11回	「戦後73年の日本地理」 ⑦貿易摩擦と自動車産業 貿易摩擦と日本の工業を学ぶ。日本の主力産業となった自動車産業の発達過程と貿易摩擦の問題点をDVD映像から学ぶ。	
	復習 DVD鑑賞ワークシートの完成	30
第12回	「戦後73年の日本地理」 ⑧バブルの崩壊と産業空洞化を学ぶ。 バブル崩壊による景気の低迷、地方に分散した工場の撤収と海外（中国）への工場移転がすすみ、地方の産業の空洞化が始まる過程を学ぶ。	
	予習 テキスト（第四章「戦後」の終焉）と配布資料の熟読。	40
第13回	「戦後73年の日本地理」 ⑨少子高齢化社会と新自由主義の社会を学ぶ。 経済格差、派遣労働に依存する安上がり雇用政策の要因を考察する。 また少子高齢化問題の地域の実態についても考察する。	
	予習 テキスト（終章 新しい戦争の中で-「戦後」とは何だったのか）の熟読とワークシート完成	40
第14回	「戦後73年の日本地理」 ⑩持続可能な社会をめざして～東日本大震災からの復興と日本社会の復興～ 『地方消滅』議論が出てくるように、日本のこれからは、人口減少、地方消滅の課題の対応が求められている。新たな日米関係。□	
	予習 到達度テストの準備をする。	90
第15回	到達度テストを実施する。	
	復習 テストで判明した不足している知識や理解が不十分な講義内容の点検確認を行う。	30

#### 授業の方法

テキストを基礎知識にして、戦後日本の地理的变化を配布資料を適宜参照しながら、講義形式を進める。  
また、戦後社会の変化のイメージを把握するためDVD教材も活用する。

#### 成績評価の方法

2回のレポート、各講義で行うワークシートで40%、到達度試験40%、講義への出席(出席は、10回以上が前提条件)や講義中の態度などで20%で評価する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

新聞をよく読んで、この講義に関連する記事をスクラップすると講義の理解にも就職試験にも役立つ。又、配布資料やテキストをよく読むこと。

#### テキスト

山川出版「もういちど読む 山川日本戦後史」(ISBN: 9784634591134)

#### 参考書

中村政則『戦後史』岩波新書2005年  
中村・森編『年表 昭和・平成史 1926-2011』岩波書店 講義中に配布する資料をファイルして、よく読むこと。また参考文献については、講義中に別途指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代世界の地理 <1>		
教員名	伊藤 修一		
科目ナンバー	1201491050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>人口や経済、社会、環境といった地域にかかわる今日的な諸課題の理解には、その一地域だけではなく、グローバルな影響も考慮することも必要となっている。また、世界各地で生じている類似した課題でもその要因や過程には共通点とともに差異があり、これらは地理（学）的な視点からの理解が不可欠である。</p> <p>この授業ではおもに、地球規模あるいは国際的な諸課題や、グローバルな現象・活動とローカルな地域との間の相互作用を、地理（学）的な視点からとらえる方法を学修して、考察する力を講義を通じて養成してもらう。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>DP1（教養の修得）、3（他者との協働）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①地図や統計図表の解釈によって、世界スケールにおける地理的多様性の特徴を読み取ることができる。</p> <p>②地理的現象が生じる背景やメカニズムについての理解を深める。</p> <p>③特定の地域でみられる地理的現象について、その特徴や問題点を具体的に説明・指摘できる。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業全体を通じての目標、進め方、予習復習、評価方法などに関して説明する。		
	【予習・復習】シラバスを熟読し、授業内容や授業の進め方などについて理解する。	60	
第2回	人口増加と可住地の拡大 ・世界人口の推移を確認したうえで、その推移の背景や、人口分布とその地域差の空間的特徴などについて学修する。		
	【予習】「世界人口推計」などの資料により、世界人口の推計値を確認する。 【復習】世界人口の分布傾向と地域差の背景を人口学的視点から説明できるようにする。	60	
第3回	食料生産と異常気象 ・農業や食料自給率の地域的傾向を確認したうえで、安定的な食料生産に影響を与える気候とその変動に伴う問題点などについて学修する。		
	【予習】世界人口の変動要因や分布傾向について整理する。 【復習】主要農産物の産地分布と異常気象発生地域の関係を確認し、その問題を具体的に説明できるようにする。	60	

第4回	食品・消費財で考える生産・流通のグローバル連鎖 ・食品・消費財の生産から消費に至る一連のプロセスの地球規模の展開について概観して、今日の地域人口との関係や問題点などを学修する。	
	【予習】食料増産と人口増加の一般的な関係を確認する。 【復習】フードチェーンの役割と空間的展開の特徴、展開にともなう地域への影響について具体的に説明できるようにする。	60
第5回	多国籍企業の展開とグローバル社会の到来 ・多国籍企業の登場の背景と展開、地域への影響について学修する。	
	【予習】フードチェーンの空間的特徴について整理する。 【復習】現代における多国籍企業の役割やその活動に伴う地域社会の変化について具体的に説明できるようにする。	60
第6回	世界の経済格差と階層化 ・世界の国・地域の所得などの経済格差の傾向を捉えたうえで、格差の形成過程とその背景、課題などについて学修する。	
	【予習】地図帳等で「国別の1人当たり国民総所得」の分布の特徴を確認しておく。 【復習】グローバルな経済活動と世界規模で生じる地域の序列化との関係を簡潔に説明できるようにする。	60
第7回	先進諸国の脱工業化と地域再生 ・近年先進諸国が経験してきた産業構造の一般的な変容について概観し、それに伴う地域の経済や建造環境の変化の過程などを学修する。	
	【予習】世界規模で生じる地域の序列化の特徴を整理する。 【復習】先進諸国の脱工業化の特徴と、それに伴う地域の再生について具体的に説明できるようにする。	60
第8回	経済の金融化とグローバルシティの諸問題 ・グローバル経済の発展にともない、重要性が増してくる国際金融の地理的展開の特徴や金融システムの不安定化による地域への影響などについて学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴について整理する。 【復習】国際金融システムの地理的展開の特徴と問題点について具体的に説明できるようにする。	60
第9回	グローバルシティのモザイクと多文化共生 ・近年先進諸国が経験してきた産業構造の一般的な変容に伴う、都市社会空間の変化や課題について学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴と、それに伴う地域の再生について整理する。 【復習】グローバルシティ形成にかかわる、流入する外国人の役割や、彼らの社会的位置について具体的に説明できるようにする。	60

第10回	グローバル化と民族対立の諸相 ・民族の意味とその分布の特徴を確認したうえで、グローバル化に伴って変化する経済格差と結びついた民族的な対立の特徴について学修する。	
	【予習】グローバルシティ形成における、流入する外国人の役割や、彼らの社会的位置について整理する。 【復習】国際人口移動と民族対立との関係や現代の民族対立の背景について具体的に説明できるようにする。	60
第11回	リスク社会の空間的な現れ ・科学技術の進展にともなって高まる現代的なリスクの意味と特性を確認したうえで、グローバルな経済活動における地域リスクやリスク受容の地域差などについて学修する。	
	【予習】辞書等で「リスク」の意味を確認する。 【復習】リスクへの関心が高まる背景と、リスクと地域との関係を簡潔に説明できるようにする。	60
第12回	グローバル化の進行と周辺地域の成立 ・グローバル経済の影響をうけ、貧困をはじめとする農村地域が抱える構造的問題とその克服について学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴について整理する。 【復習】先進諸国との関係を意識して、特定地域が周辺に位置づけられる背景を簡潔に説明できるようにする。	60
第13回	周辺地域の農村問題 ・グローバル経済の影響をうけ、貧困をはじめとする農村地域が抱える構造的問題とその克服について学修する。	
	【予習】周辺地域の意味を確認する。 【復習】グローバル経済の進展と農村問題との関係を具体的に説明できるようにする。	60
第14回	半周辺地域の成長と都市問題 ・グローバル経済のもと、急成長してきた半周辺国の都市の成長過程とその要因、弊害などについて学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴について整理する。 【復習】先進諸国との違いを意識して、半周辺地域の成長過程の特徴を簡潔に説明できるようにする。	60
第15回	到達度の確認・質疑応答 ・これまでの学修内容に関する到達度を確認するためのテストにとり組む。	
	【予習】ノートや配布資料、地図帳を読み込み、活用して地域を説明できるようにしておく。	60

#### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行われる。基本的にはプロジェクターを使用し、配布資料とあわせて授業内容の理解を促す。
- ・ 配布資料は授業後にPortalから印刷できるようにする予定なので、授業中に入手できなかった場合は各自で印刷して入手すること。
- ・ 授業では折に触れて小テストの時間を設けて、前回までの授業内容の理解度や関心の深さを測る。解答解説は原則としてその次の回で行う。
- ・ 授業の進捗状況や受講者の関心などにより、内容や計画の順番を変更することがある。

#### 成績評価の方法

到達度を確認するためのテストの成果（1回：80%）と、小テスト（10回程度：20%）から総合的に評価する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

とくに次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ① 地図や統計図表を読んで、地理的現象・諸課題の特徴を具体的に指摘できる。
- ② グローバルな地理的現象・諸課題が生じる一般的な原因と過程を具体的に説明できる。
- ③ 特定の地域で生じる現象・課題を、地域的特性とともに、グローバル化との関係も考慮して具体的に説明・指摘できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日頃からニュースに注目して、世界情勢に関する理解を深め、関心を高めるように努めること。その際には地域の名称と位置を、中学校あるいは高校で用いた地図帳で確認しておくこと。「現代日本の地理」を先に履修することで、現代世界の諸課題の意味や重要性をより深く理解できるはずである。

#### テキスト

中学校や高校で用いた地図帳

#### 参考書

- 『経済地理学：キーコンセプト』、青山裕子・J.T. マーフィー・S. ハンソン著、小田宏信ほか訳、古今書院、3,000円（税別）、ISBN4772231572
- 『世界システムという考え方―批判的入門』、山田信行、世界思想社、2,400円（税込）、ISBN4790715726
- 『都市社会地理学』、P. ノックス・S. ピンチ著、川口太郎・神谷浩夫・中澤高志訳、古今書院、7,500円（税別）、ISBN4772252669

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室、あるいは随時電子メールで受け付ける。

科目名	現代世界の地理 <2>		
教員名	加賀美 雅弘		
科目ナンバー	1201491050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

### テーマ・概要

「食からみたヨーロッパ社会」  
 ヨーロッパ固有の食文化の形成過程を、①自然環境に適応した農業、②近代化と社会構造の変化、③工業化、の3点に着目し、地域の変化と関連づけながら考察する。今日あるヨーロッパの食文化がいかに多様な要因によって形成されてきたかを学習し、ヨーロッパ特有の社会を理解することにつなげる。なお、必要に応じて、日本との違いにもあわせて追及する。

### 到達目標

ヨーロッパの食文化に着目し、食を規定する地域的要因として、自然環境と農業、社会構造、近代化との関係に注目して論じ、地域の歴史的発展の経緯を踏まえながらヨーロッパ社会を論じる視角を学習する。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション：授業内容の説明とヨーロッパ理解度のチェック	
	【予習】ヨーロッパの地図を見て、国の位置を解しておく。 【復習】ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。	60
第2回	地理的スケールでとらえる食文化：食からみる世界の地域差	
	【予・復習】世界の自然環境と農業・食文化の関係に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	80
第3回	自然環境と結びついたヨーロッパの食文化：農業で異なるローカルな食文化	
	【予・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	80

第4回	自然環境と結びついたヨーロッパの食文化：北西ヨーロッパの食（豚肉と牛乳）	
	【予習・復習】ヨーロッパの食文化についての参考文献を読み、知識を蓄える。	80
第5回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：貧困層の食（トムロコシとペラグラ）	
	【予・復習】ヨーロッパの貧困層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	80
第6回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：貧困層の食（ジャガイモと飢饉）	
	【予習・復習】ジャガイモの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。	100
第7回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：近代化と都市文化	
	【予習・復習】ヨーロッパの近代化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	100
第8回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：富裕層の食（ステイタスシンボルとしての砂糖）	
	【予習・復習】砂糖の歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	100
第9回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：富裕層の食（市民社会におけるコーヒー）	
	【予習・復習】コーヒーの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	100

第10回	近代化で変わった食文化：モダンな食（グルメとしての水）	
	【予習・復習】近代化と富裕層に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第11回	近代化で変わった食文化：ステイタスある食（保養地の暮らし）	
	【予習・復習】余暇の誕生に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第12回	工業化で変わったヨーロッパの食文化：工場で作られる食（グルメでなくなったチョコレート）	
	【予習・復習】チョコレートの歴史に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第13回	工業化で変わったヨーロッパの食文化：工場で作られる食（匂のない酒・ビール）	
	【予習・復習】ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第14回	ヨーロッパの格差社会と食・栄養の地域差	
	【予習・復習】食の多様性，不平等に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第15回	まとめ（試験を含む）	
	【予習】授業内容を整理し，ヨーロッパ社会に関する理解を進める。	150

#### 授業の方法

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認する。

#### 成績評価の方法

学期末試験：40%、授業中に課すリアクションペーパーの内容：60%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点について、その達成度により評価する。

- ①ヨーロッパの自然環境と農業・食の関係を理解している。
- ②ヨーロッパの世界進出と食との関係を理解している。
- ③近代化によってヨーロッパがいかに変化したかを理解している。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

ヨーロッパの国名と地名について、地図帳を利用して把握しておく。

#### テキスト

使用しない。

#### 参考書

授業中に適宜紹介する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

基本的に、リアクションペーパーに書かれたすべての質問に対して電子メールで対応する。

科目名	国際教養総合講義（国際文化交流論）		
教員名	久保 和朗		
科目ナンバー	1301495030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

### テーマ・概要

本科目では、グローバル時代における日本の進路を考える一環として、国際文化交流の意義と現状を概観する。本講義では、国際文化交流の歴史的展開、各種交流の具体例、ジャンルや担い手別の特徴などを広く紹介するとともに、日本の代表的国際文化交流実施機関である国際交流基金の事業例などを見ながら、交流の目的、実施上の留意点、評価など、文化交流の要点を詳しく検討する。その過程で、文化の本質について考察するとともに、新しい価値観の創造、外交や「国益」との関係などを考える。

### 到達目標

- ① 円間社会および国際関係における文化の役割を理解する。
- ② 文化の本質について基礎的理解を得る。
- ③ 多様な文化に関する幅広い知識を習得する。
- ④ 国際文化交流実施上の留意点を理解する。
- ⑤ 国際文化交流の意義と評価に関する見識を養う。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	1. 序論（「国際文化交流」とは何か） ・ 講義の概要説明と受講者の関心調査 ・ 「国際文化交流」とは何かにつき類似概念を整理する	
	シラバスを通読し、国際文化交流全般にかかる各自の問題意識を整理しておく。 （「国際交流」、「国際協力」、「文化交流」、「異文化理解」などの関係について考えておく）。	60
第2回	文化とは何か（1） ・ 文化の定義、概念について考察する ① 円間の生活様式の全体 ② 哲学、芸術、科学、宗教などの精神的活動、およびその所産	
	「文化」という言葉の辞書的定義を理解したうえで、同じ言葉が日常どのように使われているかを考えておく	60
第3回	・ 文化とは何か（2） ・ 文化の特質を考察する ① 集団により伝承される／個人により実践される ② 保守的傾向がある／変容する ③ 総合的なシステムである／詳細な部分からなる ④ 排他的な性格をもつ／融合・発展する ⑤ 通常無意識な規範である／時により非常に自覚的である	

	文化が内包する矛盾的側面につき、具体的な例を考えておく	60
第4回	文化とは何か（3） ・文化の接触で何が生じるかを考察する ・文化相対主義について学ぶ	
	文化の諸側面に留意し、複数の文化が接触する時に生じうる具体例を考えておく	60
第5回	・国際文化交流の目的 ・国際文化交流の目的につき、全体像を把握する	
	国際文化交流の様々な目的を整理しておく	60
第6回	国際主義と現実 ・国際主義とは何かを考える ・国境の実際を見る	
	世界と国家との関係について、理想と現実との両側面から考えをまとめてみる	60
第7回	国際文化交流の歴史 ・遣隋使、遣唐使から21世紀までの日本の文化交流の歴史を振り返る ・日本文化史を通覧する	
	日本が外国との接触により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えつつあるか考えておく	60
第8回	国際文化交流の担い手 ・国際交流基金設立の背景をレビューする。 ・文化交流の担い手の多様化を見る ・諸外国の国際文化交流機関に関する知識を得る	
	文化交流の担い手別による目的・手法などの違いを考えておく	60

第9回	国際文化交流の手段（1）人的交流 ・人的交流の意味を考える ・人的交流の現状と課題	
	日本と外国の懸け橋になった人物などについて具体的な知識を得、文化交流における個人の役割について考えておく	60
第10回	国際文化交流の手段（2）芸術交流 ・芸術交流の意味を考える ・芸術交流の現状と課題	
	芸術は国境を越えるか、などにつき考えをまとめておく	60
第11回	文化交流の手段（3）固有文化の紹介 ・日本紹介の意味を考える ・日本紹介の現状と課題	
	日本文化の特質について考え、外国に日本文化を紹介する上での注意点を考えておく	60
第12回	文化交流の手段（4）言語普及 ・言語普及の意味を考える ・日本語教育の現状と課題	
	言語と異文化理解の関係につき考察し、言語普及の意味と普及の手法について考えをまとめておく	60
第13回	文化交流の手段（5）知的交流 ・日本研究の歴史と意義を確認する ・世界規模問題（グローバル・イシュー）と文化の関係	
	①地域研究の基礎につき知識を得、いわゆる「日本論」・「日本人論」について考えておく ②世界的課題とは何かにつき考えを整理し、文化との関連を考察しておく	60
第14回	国際文化交流の評価と展望（まとめ） ・国際文化交流の課題は何か ・外交との関係はいかにあるべきか	
	国際文化交流はどうあるべきか、これまでの講義を振り返り各自の意見を整理してみる	60

第15回	多様な世界 ・世界の国々に関する知識を広める	
	世界についての関心を高めておく	60

#### 授業の方法

- ・授業は講義形式で行うが、状況に応じて質疑応答ないしは討論を歓迎する。国際文化交流は実践的な意味が強いため、講義を聞くだけでなく自由に考えを発表する意欲を持ってもらいたい。
- ・時々小テストを行うことも検討する。
- ・可能な範囲で、授業時間内にレスポンス・ペーパーの提出も検討したい。
- ・授業の進捗により、内容を一部変更することがある。

#### 成績評価の方法

期末レポート（50%）、出席（50%）。授業中の質問・発表等、積極的関与があれば適宜加点する。

#### 成績評価の基準

- 成蹊大学評価基準（学則第39条）に準拠する。
- ・国際文化交流に関する幅広い知識と理解をどの程度獲得できたかをはかる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の歴史、文化、世界情勢、外国文化などに関する偏らない知識を要する。

#### テキスト

- ・最初の授業で、全15回分を網羅した「資料集」を配布する。ほかに必要な文献資料はその都度用意する。
- 書籍については、授業の進展に合わせてその都度紹介する。

#### 参考書

- ・授業中に適宜言及する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中の質問を歓迎する。授業中に対応できない場合は授業終了後に受け付ける。必要な場合、メールで補足的に受け付ける。

科目名	国際教養総合講義（保守主義とリベラルの思想的対立からみたアメリカ政治）		
教員名	中岡 望		
科目ナンバー	1301495020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**  
 本コースでは、アメリカの政治を政治思想と歴史の観点から学ぶ。建国から始まる国家観の争い、リベラリズムと保守主義の対立を通して現在のアメリカの政治・社会を理解する。また、オバマ政権、トランプ政権の持つ意味についても、理解を深める。

**到達目標**  
 最低限、メディアで報道されるアメリカの政治、社会、経済問題の本質は何であるかを理解できるようにする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の構成と狙いに関する説明、および受講生の授業に関する要望、質問に応える	
	このクラスの準備は必要ない	1時間
第2回	アメリカ革命の思想的意味	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第3回	憲法を読む：憲法を理解しなければ、現在のアメリカの抱える様々な問題は理解できない。各章ごとに読み、アメリカ社会を支える理念を理解する	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間

第4回	ジェファーソンとハミルトンの戦い：政府はいかにあるべきかを巡る論争。	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第5回	独立から南北戦争に至るアメリカ社会：初期のアメリカ政治、第2次米英戦争の意味。政党の発展：民主共和党、ホイッグ党、民主党	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第6回	南北戦争の意味：リンカーン大統領と奴隷制度。リンカーン大統領の思想、奴隷制を巡るキリスト教内での対立	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第7回	南部再建と新たなアメリカの政治社会の発展、奴隷解放から黒人の人種差別への移行	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第8回	産業革命とGilded Age、貧富の格差、移民問題、進歩主義の思想	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第9回	進歩主義の時代：セオドア・ルーズベルト大統領とウッドロー・ウィルソン大統領の進歩主義	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間

第10回	大恐慌とフランクリン・ルーズベルト大統領のニューディール政策	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第11回	ニューディール・リベラリズムとニューディール連合：大きな政府の時代	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第12回	戦後の保守主義の台頭：その思想的背景：リベラル派と保守派の対立	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第13回	レーガン大統領の保守革命、変わるアメリカの政治	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第14回	クリントン政権とオバマ政権の果たした役割。リーマンショックとアメリカの政治、経済、社会の変貌	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間
第15回	トランプ政権の誕生とポピュリズム。アメリカはどう変わるのか	
	事前に資料を配布するので、クラスに参加する前に必ず読むこと	1時間

#### 授業の方法

例年、クラスの受講生が多いので、講師の講義を主体に事業を進める。

#### 成績評価の方法

期末試験で評価する

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。政治、歴史など社会学系の専門でなくても受講は可能。

#### テキスト

中岡望『アメリカ保守革命』（中央公論新社）  
Paul S. Boyer, "A Very Short Introduction: American History" (Oxford University Press)  
ヤフー個人記事：中岡望=<http://bylines.news.yahoo.co.jp/nakaokanozomu/>

#### 参考書

必要に応じてクラスで指示する

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

オフィスアワーはない。必要であれば、事前にメールでアポイントを取ること。連絡アドレスは授業中に連絡する。

科目名	国際教養総合講義（世界経済と国際金融）		
教員名	篠山 善行		
科目ナンバー	1001495040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

### テーマ・概要

世界経済に関心ある方、海外関連の仕事を考えている方、単に興味ある方、ぜひこの講座を聞いてください！

1. この道一筋30年の国際金融マンが講師です。世界経済の現状や日本企業の海外での活躍について学び、考えます。
2. 受講生自身の経済を見る目や問題意識を育て、自分なりの意見を伝える力を磨きます。
3. 海外関連の仕事に関心ある受講生に対し、就職へのイメージやガイダンスを与えます。

### 到達目標

1. 世界経済についての関心と理解を深め、日々発生する経済事象について自分なりの意見（自分の生活や日本への影響を含む）を持つようになること、またそれを他者に説明できるようになること。
2. 「金融」とは何か、またプロジェクトファイナンスなどの国際金融の基礎知識を学び、他者に分かりやすく説明できるようになること。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	初回ガイダンス。講義の目的や内容について説明する。また、世界経済や国際金融に関する受講生の関心や理解度を確認するためのアンケートを行う。	
	講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第2回	世界経済を考えよう① (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第3回	世界経済を考えよう② (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分

第4回	世界経済を考えよう③ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第5回	世界経済を考えよう④ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第6回	世界経済を考えよう⑤ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第7回	世界経済を考えよう⑥ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第8回	世界経済を考えよう⑦ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場等の動向を通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第9回	国際金融を学ぼう① (「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際的な金融の仕組みや実例、考え方について理解する。また、IMF、世界銀行、AIIB等を紹介。)	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分

第10回	国際金融を学ぼう① （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際的な金融の仕組みや実例、考え方について理解する。また、IMF、世界銀行、AIIB等を紹介。）	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第11回	国際金融を学ぼう① （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際的な金融の仕組みや実例、考え方について理解する。また、IMF、世界銀行、AIIB等を紹介。）	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第12回	国際金融を学ぼう① （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際的な金融の仕組みや実例、考え方について理解する。また、IMF、世界銀行、AIIB等を紹介。）	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第13回	国際金融を学ぼう① （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際的な金融の仕組みや実例、考え方について理解する。また、IMF、世界銀行、AIIB等を紹介。）	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第14回	国際金融を学ぼう① （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際的な金融の仕組みや実例、考え方について理解する。また、IMF、世界銀行、AIIB等を紹介。）	
	前回講義の復習及び今回講義テーマに関する受講生の関心事項や理解度の整理。	60分
第15回	期末試験及び試験問題解説	
	試験準備（講義資料のおさらい等）。	60分

#### 授業の方法

パワー資料等を用いて講義形式で行う。講義中、受講生の関心や理解度を確かめるため、挙手や指名による質疑応答をたくさん行う。また、理解度を確かめるためのミニテストやアンケートを時々行う。

#### 成績評価の方法

第15回講義にて行う期末試験及び各講義における理解度、貢献度（ミニテストやアンケートの回答内容、講義での発言の頻度や内容）によって評価を行う。評価点の配分は、期末試験が50%、各講義における理解度、貢献度が50%。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし。

#### テキスト

なし。

#### 参考書

なし。

#### 質問・相談方法等（オフィス・アワー）

各回の授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代アジア史 A <1>		
教員名	久保田 善丈		
科目ナンバー	1201496010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**

近現代日本とアジアの関わり、相互の「まなざし」のあり方がテーマ。とくに19世紀後半以降、非西洋は西洋の植民地主義的まなざしにさらされることになるが、そこではイメージの捏造とステレオタイプ化が進められ、アジアは「野蛮」「後進」の文脈で表象されることで「そうではない西洋」というイメージを支えることになる。そして、一般に「オリエンタリズム」と呼ばれるこうした植民地主義的まなざしのあり方は超領域的に問題とされ、例えば近代日本のアジアに対する「オリエンタリズム」が検討されるのだ。この授業の目的のひとつは、以上のような議論を軸に事例演習を重ね、オリエンタリズム批判の基本的な方法を理解することにある。そのさい重視するのが、アジア(とくに中国)、日本、「西洋」の間の「まなざし」の応酬だ。「わたしたち」は、あるいは「彼ら」は、「わたしたち」を「彼ら」をどのように捉えてきたのか、なぜそのように捉えるのか、その「まなざし」には「わたしたち」や「彼ら」のいかなる欲望が作用しているのか。このことは、今も根強く残る19世紀的ヨーロッパ的価値観と向き合いながら自身と他者を見つめ直すことを意味する。また、以上のような問題を扱うに当たってはポストコロニアル理論、ジェンダー理論を参照していくことになるだろう。

**到達目標**

「わたしたち」は、あるいは「彼ら」は、「わたしたち」を「彼ら」をどのように捉えてきたのか、なぜそのように捉えるのか、その「まなざし」には「わたしたち」や「彼ら」のいかなる欲望が作用しているのか、という問題を植民地主義的まなざし、ジェンダーイメージの共有という観点から構想できるようになることを目標とする。

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	わたしたちのまなざしを規定するオリエンタリズムとは。 事例として、「わたしたち」のオリエンタリズム、近代日本のオリエンタリズムを確認する。		
	シラバスをよく読んでおく。 レイ・チョウの議論を調べてみる	60分	
第2回	アジアのステレオタイプを考えるために① 「わたしたち」と「彼ら」。他者、差異、他者化とは。 他者化の典型例としての植民地主義的言説。		
	前回の内容を配布したプリント等で確認しておく。	60分	
第3回	アジアのステレオタイプを考えるために② 植民地主義的な他者化とジェンダーイメージの関係。男として想像される強国(植民地主義宗主国側)と非男性・女として想像される弱国(植民地側)。		
	イギリス、フランス、日本などの植民地主義的拡大についての基本的事実を確認しておく。	60分	

第4回	アジアのステレオタイプを考えるために③ 近年の事例を分析してみる。北京オリンピックの見え方、見せ方。チベット問題の見え方。	
	北京オリンピック開会式の雰囲気が分かる映像を見ておくことが望ましい。	60分
第5回	中国を見るということ① 広大で、多様で、複雑な中国をどうして「中国」として「ひとまとまり」に想像できてしまうのか。	
	中国の基本情報を確認しておく。	60分
第6回	中国を見るということ② 中国の見え方と「わたしたち」の「見たい中国」、「都合のいい他者としての中国」の登場。西洋中心主義と中国イメージの逆転。	
	自分の「見たい中国」を整理してみる。イギリスと中国の基本的な関係史を確認する。	60分
第7回	中国を見るということ③ 19世紀後半 - 20世紀にかけてのイギリスの中国イメージを画像で分析する。オリエンタリズム、植民地主義のイメージに見る「都合のいい他者」。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分
第8回	植民地化されるということ。植民地宗主国による他者化と植民地ネイティブの自己イメージ。美しくも無垢でもない植民地化されたネイティブ。	
	フランツ・ファンノンについて少しでも調べておく。	60分
第9回	植民地主義的分類法(人種主義、オリエンタリズム)の拡散と浸透。植民地主義的イベントとしての万国博覧会。「展示されるアジア人」。	
	万国博覧会の基本情報を確認しておく。	60分

第10回	「展示されるアジア人」とまなざしの応酬。見られる - 見る - 見せるアジア人。アメリカ、セントルイス万博の事例分析。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分
第11回	展示される日本、展示する日本。パリ万博と内国勧業博覧会。植民主義的まなざしの連鎖、その方法の連鎖。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分
第12回	中国人の見え方。中国人脅威論の歴史。黄禍論の歴史。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分
第13回	見られる - 見る - 見せる中国① 中国をめぐる植民主義的イメージとジェンダーイメージ。女性化される中国、まなざし返す中国。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分
第14回	見られる - 見る - 見せる中国②	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分
第15回	アジアのステレオタイプと植民主義的まなざし、ジェンダーイメージの関係を整理。「バタフライ伝説ステレオタイプ」「新しい女ステレオタイプ」など。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	60分

#### 授業の方法

講義中心だが、授業で与えられた発想に基づいてレポートを作成することを目的とする。授業毎の「事例演習プリント」を通じて、講義のポイントを自分のものにしていくような形をとる。

#### 成績評価の方法

「事例演習プリント」（出欠確認を兼ねる）、学期末のレポートを総合して評価する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

19世紀後半以降の世界史についておおまかな流れを理解していれば授業に入りやすい。

#### テキスト

随時提示

#### 参考書

随時提示

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代アジア史 A <2>		
教員名	土肥 歩		
科目ナンバー	1201496010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**

21世紀を迎え、中国はアメリカやロシアと並ぶ世界の大国に変貌しつつあります。日本では、隣国である中国との交流の重要性が認識される一方、中国が進んだ近現代史からその社会や文化を理解しようという試みは、それほど関心を集めていません。しかし、歴史認識や領土をめぐる問題などがメディアで報道される時代において、基礎的な事実関係を学ぶ行為が等閑視されるべきではありません。

こうした問題意識から、本講義は19世紀から1920年代までの中国の近現代史を扱います。中学や高校の授業で皆さんが勉強してきた歴史を基礎としながらも、最新の研究成果を紹介しつつ、中国が王朝体制から近代的な国家に生まれ変わる様子を追体験したいと思います。

**到達目標**

本講義の目標は以下の3点になります（DP1・DP3）。

1. 本講義への出席や予習復習を通じて、中国を理解するための知識量を増やすこと。
2. 単なる単語や用語にとどまらず、「なぜ清朝が滅亡したのか」「なぜ日本と中国が戦争をしたのか」といった疑問に対して、基礎的な歴史的経緯を説明できるようにする。
3. 本講義で学んだ内容を踏まえて、数十年単位で日本や中国を含む東アジアの歴史を理解する視点を養う。

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
第1回	授業ガイダンス ・本講義のねらいと成績評価方法について説明する。		
	予習：シラバスを通じて講義内容を確認する 復習：授業の全体像や成績評価方法を確認する。	30	30
第2回	アヘン戦争とアロー戦争 ・中国とヨーロッパとの関係について論じる。		
	予習：教科書（吉澤）、第1章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60	
第3回	中華世界の動揺：キリスト教伝道と太平天国 ・国内の動乱が政治に及ぼした影響を考える。		
	予習：教科書（吉澤）、第2章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60	

第4回	中華世界の動揺：朝貢一冊封体制の変容 ・琉球と朝鮮半島をめぐる日中間の外交交渉を学ぶ。	
	予習：教科書（吉澤）、第3章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第5回	日清戦争から戊戌変法へ ・康有為と梁啓超が中央政界で行った改革の実態を学ぶ。	
	予習：教科書（川島）、第1章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第6回	義和団戦争と光緒新政 ・大規模な排外運動の原因と結果について議論する。	
	予習：教科書（川島）、第2章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第7回	孫文による革命運動と社会の変化 ・清末の倒清革命運動の思想と実態を論じる。	
	予習：教科書（川島）、第2章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第8回	辛亥革命と袁世凱の台頭 ・辛亥革命後に実権を握った袁世凱について学ぶ	
	予習：教科書（川島）、第3章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第9回	第一次世界大戦と北京政府 ・対華二十一条要求が日中関係に与えた影響を学ぶ。	
	予習：教科書（川島）、第1章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60

第10回	第一次世界大戦の終結と五四運動 ・反日運動が発生した原因とその結果について学ぶ。	
	予習：教科書（川島）、第4章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第11回	ソヴィエト政権による対中外交 ・カラハン宣言の実態や、孫文とソヴィエト政権の関係を論じる	
	予習：教科書（川島）、第5章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第12回	国共合作と北伐の開始 ・国民党内部において、なぜ蒋介石が頭角を現したのかを考える。	
	予習：教科書（石川）、第1章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第13回	南京国民政府の成立と国内改革 ・4.12クーデタの意義と、国民政府による利権回収工作を学ぶ。	
	予習：教科書（川島）、第2章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第14回	日中関係の変化：済南事件と満洲某重大事件 ・日中関係が悪化するきっかけとなった二つの事件について解説する。	
	予習：教科書（川島）、第2章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第15回	前期授業のまとめと補足	
	予習：なし 復習：これまでの授業で扱ったキーワードや論点を理解できているか、配布プリントと資料を再度確認する。	60

#### 授業の方法

毎回配布するプリントとパワーポイントのスライドを中心に講義を行います。  
場合によっては、映像資料や写真などを用いて説明します。

ただし、受講生の顔ぶれや理解度によって授業スケジュールを変更することがあります。ご了承下さい。

#### 成績評価の方法

学期末試験 40%

(授業内容の理解度を評価する論述試験となります。ノート類の持ち込みは認めません)

課題レポート 40%

(授業に関連した研究書1冊を読んで、レポートを執筆し学期内に提出してもらいます)

平常点 20%

(授業への参加状況や授業への提言など)

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし。

#### テキスト

吉澤誠一郎『清朝と近代世界：19世紀』岩波新書、2010年。  
川島真『近代国家への模索：1894-1925』岩波新書、2010年。  
石川禎浩『革命とナショナリズム：1925-1945』岩波新書、2010年。

#### 参考書

授業にて指示します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代アジア史B <1>		
教員名	久保田 善丈		
科目ナンバー	1201496020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>近現代日本とアジアの関わり、相互の「まなざし」の応酬、ジェンダーイメージの作用のあり方がテーマ。とくに19世紀後半以降、非西洋は西洋のオリエンタリズムにさらされるが、そこではイメージの捏造とステレオタイプ化が進められ、アジアは「野蛮」「後進」の文脈で表象されることになるのだが、この授業では、それが、日本とアジアの関係に連鎖することを重視する。こういった観点をベースとした事例演習を重ねることで、「アジア主義的な問題」、「ポストコロニアルな問題」の見つけ方を身につけることになるだろう。より具体的には、「オリエンタリズム」をベースとする、近現代日本の「アジア主義的感性」や都合のいい「ノスタルジア」をアジアに求めるような感性、身の回りを埋め尽くしているジェンダーイメージの日本 - アジア関係への転用といった問題を扱っていく。そのための事例を近現代日本・台湾・中国に見出して検証することがこの授業のもう一つの目的ということになる。また、以上のような問題を扱うに当たって随時ポストコロニアル理論を参照していくし、植民地を女性に、宗主国を男性に見立てるような議論に対してはジェンダー理論を参照していくことになるだろう。近現代アジアの歴史をジェンダー理論、とくに近年盛んになりつつある「男性性」研究の成果によって読み替えてみるという作業もこの授業の重要な観点のひとつだからだ。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>「わたしのアジアイメージ」が意識すると否とにかかわらず植民地主義的やジェンダーにかかわるイデオロギーによって社会的に構成されるという発想を理解する。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	<p>「わたしたち」にとってのアジアを考えるために、この授業で用いるいくつかの考え方、概念を事例で確認。ポストコロニアル、構成主義、植民地主義的なファンタジー、まなざしの応酬。</p>		
	シラバスをよく読んでおく。		60分
第2回	<p>まなざしの応酬を通じて構成主義的に自他イメージが出来上がっていくというものの確認。アジアイメージも、ジェンダーイメージも。</p>		
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。		60分
第3回	<p>「西洋 - 日本 - 日本以外のアジア」という枠組。そこでの自他イメージの構成。例えば漱石のロンドンと大連。白人に出くわしてハットする三四郎。</p>		
	ロンドンでたたずむ自分、大連でたたずむ自分を想像してみよう。同じでありうるだろうか。		60分

第4回	「心地よいアジア」とは① 「わたしたち」にとってアジアは決して「簡単」ではないはずなのに、アジアを享受できているとい現状の確認。	
	自分とアジアの直接・間接の関係を思い起こしてみる。	60分
第5回	「心地よいアジア」とは② アジア嫌いでも実は「心地よいアジア」という可能性。嫌韓嫌中の「心地よいアジア」。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第6回	ポストコロニアルな感性とアジアイメージ① 現代日本のポストコロニアルな感性の事例確認。「素敵なコロニアルスタイル」。植民地主義の連鎖、審美眼の連鎖。	
	「素敵なコロニアルスタイル」とはどんなスタイルか、チェックしてみる。	60分
第7回	植民地主義の連鎖、審美眼の連鎖事例確認(台湾大学の建築様式、「西洋」-日本-台湾)。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第8回	台湾のポストコロニアル。映画「多桑」の事例分析。台北の景観、植民地ネイティブのたたずまい(新たな支配者を受け入れるということ)。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第9回	90 - 00年代メディアの「心地よいアジア」とオリエンタリズム、アジア主義。女性雑誌、TV旅行番組の事例分析。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分

第10回	近代アジア主義の「心地よいアジア」とオリエンタリズムとホモソーシャル。ホモソーシャルとは。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第11回	アジア主義のオリエンタリズム、西洋中心主義を事例確認する。岡倉天心の「美術館」論。	
	岡倉天心の基本情報をチェックしておく。	60分
第12回	アジア主義的男らしさ① ホモソーシャル理論を理解して、アジア主義的な男らしさの世界を分析する。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第13回	アジア主義的男らしさ② 近代日本における中国、朝鮮のイメージと「男らしさ」。 アジアの非男性化と日本の盟主性。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第14回	アジア主義者、国家主義者のたたずまいと自他イメージ。頭山満、ヒトラー、ムッソリーニ、三島由紀夫、プーチン…。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	60分
第15回	文学作品(野坂昭如、赤坂真理など)を通じて、日本のアジア、アメリカとの関係をジェンダー論的に整理する。これまでの内容をふまえて「心地よいアジアの成り立ち」をまとめる。	
	これまでのプリントをチェックする。	60分

#### 授業の方法

講義中心だが、授業で与えられた発想に基づいてレポートを作成することを目的とする。授業毎の「事例演習プリント」を通じて、講義のポイントを自分のものにしていくような形をとる。

#### 成績評価の方法

「事例演習プリント」（出欠確認を兼ねる）、学期末のレポートを総合して評価する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

19世紀後半以降の世界史についておおまかな流れを理解していれば授業に入りやすい。

#### テキスト

随時提示

#### 参考書

随時提示

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代アジア史B <2>		
教員名	土肥 歩		
科目ナンバー	1201496020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

#### テーマ・概要

日本と中国は一衣帯水の間柄であり、今後も重要なパートナーであり続けることは間違いありません。しかし、日本国内では中国＝「反日」、もしくは中国＝「社会主義」というイメージが先行しがちで、そもそも中華人民共和国がどのような経緯を経て現在まで存続しているのか、その歴史が十分に理解されているとは言い難い状況が続いています。そこで、本講義では最新の研究成果を参照しつつ、日本と中国の全面衝突から、中華人民共和国の建設を経て、改革開放へと向かう中国の現代史を学びます。本授業を通じて、学生の皆さんが中国の政治、外交、文化に関する基本的な情報を吸収してくれれば幸いです。

#### 到達目標

本講義の目標は以下の3点になります（DP1・DP3）。

1. 本講義への出席や予習復習を通じて、現代中国を理解するための知識量を増やすこと。
2. 単語や用語を踏まえた上で、中国に影響を与えた国際環境や日中関係の推移など、基礎的な歴史事実を説明できるようにする。
3. 本講義で学んだ内容を踏まえて、数十年単位で日本や中国を含む東アジアの歴史を理解する視点を養う。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業ガイダンス：本講義のねらいと成績評価方法の確認	
	予習：シラバスを通じて講義内容を確認する 復習：授業の全体像や成績評価方法を確認する。	30 30
第2回	満洲事変の勃発と華北分離工作 ・塘沽停戦協定の成立経緯と日本軍の対中工作を学ぶ	
	予習：教科書（石川）、第4章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第3回	盧溝橋事件から日中全面衝突へ ・中国における民族意識のたかまりと第一次近衛声明の歴史的意義を学ぶ	
	予習：教科書（石川）、第4章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60

第4回	日中戦争：中国戦線の全容 ・日本軍の占領工作や重慶国民政府の取り組みを通じて、戦争が民衆に与えた影響について学ぶ。	
	予習：教科書（石川）、第5章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第5回	日中戦争：傀儡政権の成立 ・汪精衛（汪兆銘）を中心に、平和的に戦争終結を模索した人物たちについて学ぶ。	
	予習：教科書（石川）、第5章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第6回	日中戦争の終結と国共内戦 ・中国共産党が国民党に勝利した原因について理解を深める。	
	予習：教科書（石川）、第5章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第7回	中華人民共和国の成立と朝鮮戦争 ・毛沢東による建国初期の政治構想が戦争によって挫折することを学ぶ。	
	予習：教科書（天児）、第1章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第8回	スターリン批判と中華人民共和国 ・反右派闘争・大躍進政策による社会主義建設の失敗と、毛沢東の権威低下を学ぶ。	
	予習：教科書（天児）、第2章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第9回	プロレタリア文化大革命：国内要因と対外関係 ・10年に及ぶ混乱が発生した原因について理解を深める。	
	予習：教科書（天児）、第3章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60

第10回	プロレタリア文化大革命：混乱の終結 ・文革が収束に向かった原因を考える。	
	予習：教科書（天児）、第3章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第11回	鄧小平による改革開放政策 ・文革によって疲弊した中国経済の復興過程を学ぶ。	
	予習：教科書（天児）、第4章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第12回	日中関係史：民間貿易の時代 ・1950年代から1960年代にかけての日本と人民共和国・台湾との関係を学ぶ。	
	予習：教科書（天児）、第4章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第13回	日中関係史：国交正常化交渉 ・ニクソン訪中が日本の対中外交に与えた影響を学ぶ。	
	予習：教科書（天児）、第4章を精読 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第14回	現代中国：香港と中国（仮） ・1997年の香港返還以降の政治・社会・文化について学ぶ。	
	予習：香港基本法についての内容をインターネットや事典で調べる 復習：配布プリントと資料の再確認	60
第15回	本授業のまとめと補足	
	予習：なし 復習：これまでの授業で扱ったキーワードや論点を理解できているか、配布プリントと資料を再度確認する。	60

#### 授業の方法

毎回配布するプリントとパワーポイントのスライドを中心に講義を行います。  
場合によっては、映像資料や写真などを用いて説明します。

ただし、受講生の顔ぶれや理解度によって授業スケジュールを変更することがあります。ご了承下さい。

#### 成績評価の方法

学期末試験 40%

(授業内容の理解度を評価する論述試験となります。ノート類の持ち込みは認めません)

課題レポート 40%

(授業に関連した研究書1冊を読んで、学期内に提出してもらいます)

平常点 20%

(授業への参加状況や授業への提言など)

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

必須ではありませんが、前期開講「近現代東アジア史A」を履修した上で本講義を受講すると、中国や東アジアの歴史についてさらに理解を深めることができます。

#### テキスト

川楨浩『革命とナショナリズム：1925-1945』岩波新書、2010年。

天児慧『中華人民共和国史 新版』岩波新書、2012年。

#### 参考書

授業中に指示します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代欧米史 A <1>		
教員名	佐伯 哲朗		
科目ナンバー	1201496030	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

#### テーマ・概要

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18世紀末のアメリカとフランスの革命から19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。

#### 到達目標

欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものを見方を養う。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要、歴史とは何か	
	配布プリントを読む。第1回については授業後の復習となる。	60
第2回	イギリス領北米13植民地	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、3-34頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第3回	アメリカ合衆国の独立	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、35-45頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第4回	フランス史の基礎知識、1789年の革命	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、40-86頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第5回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、87-128頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第6回	フランス革命の意義	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、128-190頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第7回	1848年革命、ドイツ統一	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、112-120頁、145-147頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、76-160頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第8回	ジェントルマンの支配体制	
	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、368-377頁、384-390頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第9回	産業資本主義の発展	
	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、360-383頁、川北稔編『イギリス史』（山川出版社）、245-255頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第10回	ドイツ第二帝政の政治支配	
	大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、1-58頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、204-232頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第11回	ビスマルクの国内政策	
	大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、58-87頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、232-242頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第12回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義	
	木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、243-278頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第13回	フランス第三共和制の危機	
	谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房）、153-163頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第14回	ヨーロッパ諸国の植民地支配	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、191-199頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、13-47頁、を熟読する。配布プリントを読む。	90
第15回	革命前夜のロシア	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、169-175頁、274-275頁、和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、253-277頁を熟読する。配布プリントを読む。	120

#### 授業の方法

私の方で項目ごとに時代背景や基礎知識について説明する。可能な範囲で地図などの資料を利用して、過去の歴史についてのイメージをもってもらえるようにする。

第2回以降の授業では、若干の時間を使って前回の授業で提出された質問に回答する。

#### 成績評価の方法

学期末に論述形式の試験をする。また、各回の授業終了時に簡単なリアクション・ペーパーの提出を求める。評価の割合については、試験が80点、リアクション・ペーパーを含む平常点が20点、を予定している。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて、例えば、フランス革命、ドイツ統一などの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人や家族）に説明して理解してもらえるかどうか。試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は与えられない。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

#### テキスト

使用しない。

#### 参考書

有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（1、2巻）山川出版社、1993～94年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（3巻）山川出版社、1991年。柴田三千雄・榎山紘一・福井憲彦編『フランス史』（2、3巻）山川出版社、1995～96年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（2、3巻）山川出版社、1996～97年。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。また、リアクションペーパーに質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。

科目名	近現代欧米史 A <2>		
教員名	中島 幹人		
科目ナンバー	1201496030	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**  
 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、17世紀以降の主権国家の成立から18世紀末のアメリカとフランスの革命、そして近代社会の基礎を形作ることとなったイギリス産業革命までの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

**到達目標**  
 本講義では、現代市民社会を生み出した歴史的イベントの推移の基本的な知識を獲得し、その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につけることを目標とします。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入	
	あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと	60分
第2回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第3回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第4回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第5回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第6回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①(イギリス第一帝国の再編と反対運動)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第7回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②(共和国の樹立に向けて)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第8回	フランス革命(1)：18世紀における旧体制の変質(経済的発展とブルジョワジーの伸展)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第9回	フランス革命(2)：革命的状況の醸成(「世論」の興隆)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第10回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から1789年まで）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第11回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791年憲法体制から統領政府まで）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第12回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第13回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第14回	産業資本主義の発展(2)：イギリスにおける産業革命の開始	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第15回	産業資本主義の発展(3)：産業革命による社会の変化	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

#### 授業の方法

「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。また、授業の最後に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。

#### 成績評価の方法

成績評価については期末試験（論述形式）を80%、学習態度（出席2/3以上）を20%とする。  
試験・学習態度の評価基準に関する詳細はガイダンス時に提示する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

#### テキスト

特定のテキストは使用しない。授業時にテーマに即したレジュメを配布する。

#### 参考書

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房、2015年  
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』 ミネルヴァ書房、2011年  
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』 ミネルヴァ書房、2006年  
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』 ミネルヴァ書房、2005年  
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』 ミネルヴァ書房、2003年  
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』 ミネルヴァ書房、1998年  
野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴史』 ミネルヴァ書房、1998年  
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。  
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代欧米史B <1>		
教員名	佐伯 哲朗		
科目ナンバー	1201496040	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20世紀初頭の時期から20世紀中葉の第2次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。 ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	第1次大戦の原因とバルカン問題		
	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、43-46頁、柴宜弘編『バルカン史』(山川出版社)、196-217頁、225-241を熟読する。配布プリントを読む。	90	
第2回	世界戦争への道、ドイツの国内事情		
	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、46-54頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26巻 世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社)、30-39頁を熟読する。配布プリントを読む。	60	
第3回	開戦時の国内体制		
	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、54-75頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)、167-169頁を熟読する。配布プリントを読む。	60	

第4回	戦争への動員	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、170-175頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、67-89頁、および配布プリントを熟読する。	90
第5回	大戦期ドイツの日常生活	
	木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、86-89頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、175-177頁、藤原辰史『カブラの冬』（人文書院）を熟読する。	90
第6回	戦争の終結	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、177-187、193-195頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、90-95頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第7回	戦争の帰結	
	木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、170-205頁、木村靖二『二つの世界大戦』（山川出版社）、28-41頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第8回	ロシア革命	
	和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、278-310頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第9回	ヴェルサイユ体制	
	木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、205-217頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』（中央公論新社）、3-258頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、95-97頁を熟読する。配布プリントを読む。	90

第10回	1920年代アメリカの明暗、世界恐慌	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、171-193頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）189-211、289-308頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第11回	ナチズムの思想と運動	
	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、20-112頁、山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、1-22頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第12回	ナチズム、一党独裁体制の成立	
	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、114-181頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第13回	「民族共同体」の建設	
	山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、36-42頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、254-309頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第14回	「第三帝国」の政治支配	
	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、192-251頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第15回	第2次大戦前夜の国際関係	
	木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史』（ミネルヴァ書房）、149-152頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

<p><b>授業の方法</b></p> <p>プリントを配布して、項目ごとに時代背景や基礎知識について説明する。なお、可能な範囲でリクシオンペーパーによる質問に答えるようにしたい。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>学期末には、講義内容についての論述試験を行う。他に授業終了時に簡単なリアクション・ペーパーの提出を求める。評価の割合については、試験が80点、リアクション・ペーパーを含む平常点が20点、を予定している。</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.</p> <p>次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて、第1次大戦、ナチズムなどの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人や家族）に説明して理解してもらえるかどうか。</p> <p>試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は与えられない。</p>
<p><b>必要な予備知識／先修科目／関連科目</b></p> <p>前期に近現代欧米史Aを履修していることが望ましい。</p>
<p><b>テキスト</b></p> <p>使用しない。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>近現代欧米史A（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。そのほかには、木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014年。</p>
<p><b>質問・相談方法等(オフィス・アワー)</b></p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>

科目名	近現代欧米史B <2>		
教員名	中島 幹人		
科目ナンバー	1201496040	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、フランス革命以降の19世紀ヨーロッパの歴史（前半のウィーン体制、後半における国民国家の形成）、独立戦争以降のアメリカの社会的変化、および19世紀末の帝国主義時代とそれに起因する世界大戦までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>現代に直接連なる19世紀から20世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、その知識から自ら現代社会を相対化する視点をも身につけることを目標とする。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明		
	あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60分
第2回	19世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立		
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60分
第3回	19世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動揺		
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60分

第4回	19世紀前半のヨーロッパ社会(3)：ウィーン体制の崩壊	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第5回	19世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第6回	19世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隷制度と南北戦争	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第7回	19世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設(①イタリア)	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第8回	19世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設(②ドイツ)	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第9回	19世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第10回	19世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第11回	19世紀後半のアメリカ社会(2)：「金びか時代」	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第12回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義(ヨーロッパの拡大と「他者」への視線)	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第13回	帝国主義と第一次世界大戦(2)：大戦の経過とその帰結	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第14回	ヴェルサイユ体制：ヴェルサイユ体制下の各国の状況	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第15回	第二次世界大戦：世界恐慌とファシズム	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

#### 授業の方法

配布資料（レジュメ）を参照しながら講義を進める。また、授業の最後にまとめとしてプロジェクターを用いた画像資料の提示をできるだけ行いたい

#### 成績評価の方法

成績評価については、期末試験（論述形式）を80%、学習態度（出席2/3以上）を20%とする。  
期末試験・学習態度の評価基準の詳細についてはガイダンス時に提示する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

#### テキスト

特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

#### 参考書

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年  
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998年  
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年  
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年  
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2006年  
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』ミネルヴァ書房、2005年  
野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房、1998年  
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。  
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

#### 質問・相談方法等（オフィス・アワー）

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	歴史トピックス（中東地域史の諸問題）		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1101496080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**

【テーマ】中東地域史の諸問題  
【概要】現在、中東地域に関連するトピックスが報道されない日はないといってよい。過去にさかのぼってみても、中東地域はつねに国際政治、国際経済、そして文化交流の一大焦点でありつづけてきた。したがって、中東地域の「いま」を理解するためには、この地域の過去（歴史）を知らねばならない。ところが、これまで高校世界史の教科書などで教えられてきた「イスラーム史」と、中東地域史に関する最新の学術成果とのあいだには、極めて大きな隔りがある。この授業では、教科書レベルの「イスラーム史」の確認から始めて、それを批判的に検討しながら「いま」に通用する中東地域史の理解をめざす。

**到達目標**

DP1（教養の修得）を実現するため、下記の点を到達目標とする。  
・既存の「イスラーム史」理解を相対化し、その問題点を説明できるようになる。  
・中東地域史の最新の学術成果に触れ、その意味と意義を理解する。  
・中東地域の「いま」を歴史的視点から分析し、説明できるようになる。

**授業の計画と準備学修**

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。高校の世界史や倫理の教科書を用いて、「イスラーム」や「イスラーム史」に関する情報を思い出ししておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第2回	「中東」とはなにか？	
	【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第3回	「古代オリエント史」はだれのものか？	
	【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60

第4回	「古代末期」とイスラームの誕生	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第5回	中東地域史のアフロ=ユーラシア的展開	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第6回	世界システム論のなかの中東地域史	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第7回	近世帝国の時代（1）	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第8回	近世帝国の時代（2）	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第9回	中東近代史のインタラクティビティ（1） ※中間レポート提出（予定）。	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60

第10回	中東近代史のインタラクティビティ (2)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第11回	中東近代史のインタラクティビティ (3)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第12回	中東現代史から「いま」を読む (1)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第13回	中東現代史から「いま」を読む (2)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第14回	中東現代史から「いま」を読む (3)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第15回	授業の総括と確認	
	<p>【予習・復習】 授業を通して得た技能・知見・考え方のなかで、今後の各自の学習・研究に活かすことができるものを見きわめる。</p>	60

#### 授業の方法

- ・ 講義形式で進める。参加者の人数や要望に応じて演習形式の回を設けることがある。
- ・ 特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配付する。

#### 成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、期末試験（または期末レポート）（50%）。
- ・ 中間レポートの未提出者には期末試験の受験資格（または期末レポートの提出資格）を与えないので注意すること。
- ・ 授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 通説ないし教科書的な理解をひっくり返すことに「快感」を見いだす授業にしたいので、授業前に基本情報を確認する「予習」を怠らないでほしい。
- ・ 関連科目①：「アジアの歴史と文化A」では、長らく中東地域を領有したオスマン帝国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目②：「アジアの歴史と文化B」では、現代中東の地域大国の一つ、トルコ共和国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目③：「文化交流史」では、中東地域を含むユーラシア世界に展開したトルコ系諸民族（テュルク）の歴史を扱う。

#### テキスト

とくに設けない。

#### 参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。通説や教科書的な理解を確認するための参考書・事典類として、下記のものすすめる。

- ・ 後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉（KADOKAWA、2017年）
- ・ 三浦徹編『イスラーム世界の歴史的展開』（放送大学教育振興会、2011年）
- ・ 佐藤次高編『西アジア史I：アラブ』（山川出版社、2002年）
- ・ 永田雄三編『西アジア史II：イラン・トルコ』（山川出版社、2002年）
- ・ 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史トピックス (日本女性史)		
教員名	伊集院 葉子		
科目ナンバー	1101496090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

### テーマ・概要

政治の中の女性の役割をテーマとする。とくに、古代から幕末まで、天皇および為政者の意思が伝達される過程を学び、そこで女性がどのように位置づけられ役割を果たしたのかを、現存する各種史料に基づいて考察する。これまで、官僚機構や為政者の意思の伝達は、男性官僚の職務として考えられる場合が多かった。その通説的理解の是非を検討していきたい。また、政治機構は社会のあり方を反映したものである。このため、本授業では、政治史のみならず社会のありようと変化についても学んでいきたい。

### 到達目標

- ①日本政治史のなかの行政システム内の女性の位置づけを理解できる。
- ②政治のなかの女性の役割が、社会の在り方に根ざしたものであることを理解できる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の方法などを説明する。	
	授業後は、説明内容をよく理解しておくこと。	30
第2回	世界の女官観 ・「女官」「宮廷女性」「女性官僚」「奥女中」「女房」「侍女」「宮女」「宮人」など、それぞれの概念を再検討する。マリーアントワネットの女官にもふれる。	
	政治史のなかの女性について、自分なりの知識を整理しておくこと。授業終了後は、配布プリントとノートを読み直し、ポイントを整理すること。	60
第3回	古代社会と女官(1) ・官人制のめばえと女性の役割を考える。	
	卑弥呼から乙巳の変までの古代史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60

第4回	古代社会と女官（2） ・律令国家と女官。中国の律令を受け継いだ国家建設の途上で、女性の役割がどう変化したのかをみる。	
	壬申の乱以後、8世紀末までの日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第5回	唐の女官（国際比較） ・武則天側近女官の上官婉兒の墓誌が2013年に発見された。その新発見から見える唐代の女官像を紹介する。	
	世界史、とくに中国唐代の歴史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第6回	平安時代の女官と女房 ・平城太上天皇の変は、天皇と太上天皇の権力のあり方に変容をもたらしただけでなく、女官制度をも変化させる契機となった。女官・藤原薬子像を見る。	
	平安時代前期（摂関政治開始のころまで）の歴史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第7回	百人一首のなかの女房 ・紫式部と清少納言。平安文学を代表する「女房」は、いつ誕生し何を担ったのかを考察する。	
	平安時代中期（とくに道長時代）の歴史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第8回	院政期の女房 ・藤原俊成の処世術。俊成の親族女性たちは、院や女院の女房となり活躍した。定家にいたるまでの一族の消長を、「女房」をキーワードに考察する。	
	院政期（とくに12世紀）から鎌倉幕府成立までの歴史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	120
第9回	室町幕府の女房 ・武家政権では、女性はどのような役割を果たしたのかを、「今参局」を例に検証する。	
	南北朝時代から室町時代までの歴史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60

第10回	織田信長と女官 ・比叡山焼き討ち事件始末。寺院の所領返還をめぐる天皇と信長側の交渉で役割を果たした女官について公家の日記から検討する。	
	戦国時代の歴史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第11回	徳川政権下の武家の奥女中（1） ・江戸の双六に「奥女中」への憧れを込めたものがある。武士・町人・農民女性の奉公のあり方を探る。	
	徳川幕府の支配構造を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第12回	徳川政権下の武家の奥女中（2） ・徳島藩を例に、武家奥向きの人材探しと奥女中の職掌、「家」を立てた具体例をみていく。	
	徳川政権下の大名統制策を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第13回	幕末激動期を生きる女性（2） ・天皇側近女官の生と死。動乱期に生命の危機にさらされながら職務遂行にあたったのは武士や公家だけではない。女官の事例を検討する。	
	幕末・明治維新史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第14回	テスト	
	全体を振り返り、ポイントを整理しておくこと。	120
第15回	講評とまとめ	
	テストの内容を振り返っておくこと。授業後は、「講評とまとめ」を読み直し、半年の授業内容を自分なりに整理すること。	60

#### 授業の方法

配布プリントをもとに、講義内容を詳述する。授業内テストのほか、数回の小レポートを実施する。

#### 成績評価の方法

テスト、小レポートの内容、平常点（授業への参加状況や積極性の有無）などで総合的に判断する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史。

#### テキスト

授業中に随時配布する。

#### 参考書

- ①総合女性史学会編『女性官僚の歴史』（吉川弘文館、2013年）
- ②伊集院葉子『古代の女性官僚』（吉川弘文館、2014年）
- ③伊集院葉子『日本古代女官の研究』（吉川弘文館、2016年）

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、教室で受け付ける。

科目名	アジア地域理解		
教員名	小田 宏信		
科目ナンバー	1201497010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

**テーマ・概要**

発展のめざましいアジア諸国の地理的な諸問題について考えます。概説の後、ASEANを中心に経済発展のプロセスを考え、とくにフィリピン共和国の経済発展に伴う地理的諸相を例示します。続いて、アジアNIEsの事例として大韓民国、また、中華人民共和国を同様の視点から取り上げます。また、これらを通じて、日本と近隣諸国の関わり方についても考えていきます。

**到達目標**

DP1（教養の修得）およびDP3（他者との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。  
 東・東南アジアに対する地理的認識を深め、地域経済発展のメカニズムとそれに伴う国土利用の変貌と諸問題について、地理学および広く社会科学の視点から理解できる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	変貌するアジア	
	地図帳等をながめて、アジアの空間的イメージを頭の中に入れる。国名や主要大都市名も確認したい。	60
第2回	東・東南アジア地理の基礎	
	前回の復習	60
第3回	植民都市の諸相：ヨーロッパ人による統治、日本人による統治	
	前回の復習	60

第4回	民族多様性の中の国民国家形成：東南アジアを中心に	
	前回の復習	60
第5回	アジア経済発展の論理と軌跡	
	前回の復習	60
第6回	ASEANの新しい工業化	
	前回の復習	60
第7回	東南アジア地域開発の現在／ここまでのまとめ	
	前回の復習	60
第8回	東南アジアの人口の大都市集中と貧困	
	前回の復習	60
第9回	地域格差の形成と経済開発の空間戦略	
	前回の復習	60

第10回	フィリピン工業化と地域開発の歩み	
	前回の復習	60
第11回	外資輸出指向工業化の下でのフィリピンの諸地域	
	前回の復習	60
第12回	周辺部ASEANにおける地域開発戦略：ミンダナオ島の事例から	
	前回の復習	60
第13回	韓国における工業化と地域経済開発	
	前回の復習	60
第14回	中国経済発展の地域的諸相：珠江デルタ地域を中心に	
	前回の復習	60
第15回	現代アジアの地理：まとめ	
	全体を通じての復習	60

#### 授業の方法

配布資料を適宜参照しながら、講義形式で進めます。ビデオ教材、写真教材も用います。  
配布資料は欠席した場合にも原則として取り置きしません。

#### 成績評価の方法

平常点（リアクションペーパー等）20%、定期試験80%。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、達成度により評価する。

- (1) 低開発国の経済発展のプロセスについて基本的な理解ができているか。
- (2) 経済開発の空間的枠組みを理解できているか。
- (3) 東南アジア・東アジア地域の歴史と社会、地域問題について政治経済地理学的な理解ができているか。
- (4) アジアと日本の関係性について理解するための知識を身につけたか。
- (5) 東南アジア・東アジア地域の地誌的知識の基礎を身につけたか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

本科目は発展科目であるため、国際教養科目コア科目（「近現代日本史」「現代日本の地理」「現代世界の地理」「戦後日本と世界」）のいずれかを履修済みであることが望ましい。その他の関連科目として、「経済地理」（経済学部）、「経済発展」（法学部）など。

#### テキスト

本年度は使用しません。

#### 参考書

- 『グローバル化』矢ヶ崎典隆ほか編、朝倉書店、2018年4月刊行予定。  
『世界地誌シリーズ 東南アジア・オセアニア』菊地俊夫・小田宏信編、朝倉書店、3400円、ISBN: 978-4254169270  
『変動するフィリピン』貝沼恵美・小田宏信・森島済、二宮書店、2800円、ISBN: 978-4-8176-0331-9  
『東南アジアの大都市圏-拡大する地域統合-』生田真人、古今書院、2800円、ISBN: 978-4-7722-5256-0  
『現代東南アジア入門』藤巻正己・瀬川真平編、古今書院、2600円、ISBN: 978-4-7722-3123-7  
『スラムの経済学』中西 徹、東京大学出版会、5250円、ISBN: 978-4-1304-6042-2  
『アジアの政治経済・入門 新版』片山裕・大西裕編集、有斐閣、2625円、ISBN: 978-4-6411-8386-5  
『現代アジア政治経済学入門』岩崎育夫、東洋経済新報社、3675円、ISBN: 978-4-4924-4250-0  
『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫、講談社現代新書、864円、ISBN: 978-4-0628-8410-5

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ヨーロッパ地域理解		
教員名	太西 雅一郎		
科目ナンバー	1201497020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要	
<p>この講義では、映像資料を利用しながら、ヨーロッパのさまざまな地域の主要な文化的特徴について、その成り立ちの過程やそこに含まれる問題について考えます。各地域の文化・芸術・宗教的な多様性を歴史的な出来事とあわせて見ていくことで、特に統合化と開放という二つの運動の相互関係を明らかにしていきます。</p>	

到達目標	
<p>DP1・ヨーロッパの様々な地域や国家の現状を、歴史的背景を含めて理解する。  DP3・多様な価値観の理解に基づき、共存の可能性を探る。  DP5・表面的な統一性の背後に潜む歴史的・文化的な状況を理解し批判的に自己の視点で論じる力を修得する。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	帝国の都ウィーン、19世紀後半の都市改造の理由  取り扱うテーマについて基本的な知識を調べておくこと	90分
	フランスの首都パリ、19世紀後半の大改造  前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第3回	ヒトラーのドイツ  前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分

第4回	イギリス、リヴァプール、奴隷制の記憶	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第5回	アイルランド、ケルト文化に触れる	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第6回	ギリシア、古代と近代	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第7回	ノルウェー、お母さんにやさしい国	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第8回	チェコ、プラハ城をめぐる争い	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第9回	都市コルドバ、スペインとイスラーム	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分

第10回	ワルシャワ、戦争の記憶	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第11回	ヴェネツィア、アドリア海の真珠、繁栄の理由	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第12回	ロシア、サンクトペテルブルク	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第13回	オランダ、さまざまな自由	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第14回	スイス、繁栄の影で	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第15回	ヨーロッパとイスラーム社会	
	前回までの学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておくこと。	90分

#### 授業の方法

基本的にビデオを使用して、必要な補足説明を行います。

#### 成績評価の方法

毎回、授業内容をメモし、授業終了時に提出する。毎回5点満点（75%）。  
ヨーロッパに関連する書物を一定分量（50ページ以上）読み、その要約を1500字程度にまとめ提出する（25%）。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

現在、諸地域の抱える諸問題や主要な歴史的経緯について知っておくことが望ましい。  
異文化理解A, B

#### テキスト

テキストは使用しません。

#### 参考書

適宜、指示します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	北米地域理解		
教員名	小田 隆史		
科目ナンバー	1201497030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

#### テーマ・概要

このクラスでは、北米地域の社会について、様々な角度から光を当てて、その地域の地理、歴史、政治、文化等に対する理解を深める。特に、北米都市社会のまちづくり、多様な価値観を有する人々が共に暮らす社会のあり方や課題などのトピックを扱う。また、北米社会を理解するにあたって必要な英語力の向上にもプラスになる話題にも触れる。

#### 到達目標

北米の各国における社会、政治、文化の特徴を理解する。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	北米大陸の地理～多様な自然環境		
		地図を見て北米地域の位置関係	60
第2回	アメリカ合衆国の成立の歴史		
		先住民の歴史～独立～戦後	60
第3回	アメリカ合衆国の政治と社会		
		大統領制、連邦制	60

第4回	アメリカ合衆国の地方自治と都市	
	日本の地方自治制度との比較から	60
第5回	カナダの歴史と現在 (ゲストスピーカー)	
	自然環境、多文化主義、フランス語圏	60
第6回	北米(合衆国・カナダ)への国際移動～移民・難民	
	越境した人々の新天地アメリカ	60
第7回	北米日系人コミュニティの歴史	
	移住～第二次世界大戦～強制収容	60
第8回	北米日系人コミュニティの現在	
	同化と文化継承をめぐって	60
第9回	多文化共生の北米都市社会	
	公民権運動～モザイク、メルティングポット、サラダボウル	60

第10回	都市貧困、犯罪、銃社会アメリカ	
	インナーシティ問題と多重剥奪	60
第11回	9.11同時多発テロと合衆国	
	テロ、戦争とアメリカ政治、経済、社会	60
第12回	北米社会と「新しい公共」	
	NPO、社会起業家、ガバナンス	60
第13回	北米ポップカルチャー	
	ハリウッド、メジャーリーグ、NBA	60
第14回	北米での暮らし～留学や仕事で生活するために	
	留学、インターンシップ、在外勤務のための北米理解	60
第15回	まとめ	
	これまでの学習を振り返る	90

#### 授業の方法

講義で地理や文化の情報を提供しつつ、一部では学生参加型の授業形態を取る。アメリカやカナダに留学を考えている学生に役立つ話題にも触れる。実用的な英語コミュニケーションについてもトピックとして扱う予定。

#### 成績評価の方法

原則として出席(60%)、授業内レポート(10%)、期末試験(30%)。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

北アメリカの地理と歴史; 授業計画にあげた主題などについて基本的な知識。

#### テキスト

多人数の授業につき、資料は原則として「SEIKEI PORTAL」を通じて電子配布しますので、各自印刷もしくは端末機器を持参しメモを取ることができる環境を確保する必要があります。

#### 参考書

クラスで適宜紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	イスラーム世界理解		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1101497040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

**テーマ・概要**

イスラームは「宗教」として理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、多民族・多文化が共生する広大な社会空間の秩序維持ルールとして機能してきた。本授業では、「社会システム」としてのイスラームのあり方を理解してもらう。そのためにまずは西欧中心主義的な従来の世界史像を大胆に放棄し、本来の世界史の流れとその特徴を理解する。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、脱境界的・脱国家的な本来の人間社会のあり方を、イスラームをモデルに探っていく。

**到達目標**

DP1（教養の修得）およびDP2（課題の発見と解決）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

1. イスラームを過大評価も過小評価もしない自然な理解に到達する。
2. 欧米の報道等によって形作られるイスラームへの偏見を自覚できるようになる。
3. 非境界的な本来の人間関係のあり方を理解し、説明できる。

**授業の計画と準備学修**

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 導入：信仰としてのイスラームと国際法としてのイスラーム ・西欧発の「宗教」という概念の特殊性を認識し、それを相対化する。 ・イスラームの基本的世界観を把握する。	
	[予習]自分がもっているイスラームについての情報を整理しておく。	60
第2回	イスラームの基礎知識(1) ・六信五行について学修する。 ・イスラームの基本的な行事を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第3回	イスラームの基礎知識(2) ・イスラーム法学派の区別と役割について学修する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90

第4回	<p>イスラームの基礎知識 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーランとハディースの成り立ちと性格について理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第5回	<p>中東のキリスト教とユダヤ教</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界が多宗教からなっていることを学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第6回	<p>歴史認識の組み替え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西欧近代中心主義的な歴史観の偏りと限界を理解する。</li> <li>・「世界史」という概念の成立とその目的を学修する。</li> <li>・イスラーム世界の世界史上の位置を理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第7回	<p>非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バザール型社会システム」の成立条件としくみを学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第8回	<p>非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場 (=社会) 秩序維持に果たすイスラームの機能を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第9回	<p>非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的ネットワークの要としてのサウジアラビアとモロッコの位置を理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90

第10回	<p>西欧発の境界型社会システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀に出現した西欧発の特殊な認識のしくみを学修する。</li> <li>・そのしくみが特殊な社会システムを作り上げたプロセスを理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第11回	<p>音声言語中心主義の弊害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代西欧社会（国民国家）の支柱となったイデオロギーのレトリックを理解する。</li> <li>・その母胎である音声言語中心主義の限界を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第12回	<p>非境界的コミュニケーション・システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界本来の非境界的なコミュニケーションのあり方を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第13回	<p>現代の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治体制のジレンマを学修する。</li> <li>・開発経済の挫折等によって生じた経済システムのジレンマを学修する。</li> <li>・イスラーム法と欧米法の矛盾・調整過程を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第14回	<p>達成度確認テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修内容についての理解を確認するためのテストを行う。</li> </ul>	
	<p>[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。</p>	120
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度確認テストの解説と質疑応答</li> <li>・授業の総括</li> </ul>	
	<p>[復習]到達度確認テストの結果を受けてこの授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識を学修する。</p>	60

#### 授業の方法

パワーポイントを多用する講義になる。配布物は用意しないが（必要なものに限ってPDFを「授業資料」にアップする）、それはメモの取り方を各人に工夫してもらうためである。教員の話す言葉をどのように記録するか、その工夫は単に授業のみならず、実際の社会関係・人間関係の営みにも要求される技術であるとともに、イスラーム世界を理解するときの不可欠なスキルでもある。それを実践を通じて体得して欲しい。

#### 成績評価の方法

到達度確認テスト（50%）、講義中の発言や質問など授業への参加状況（50%）などによる総合評価。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。
- ・「世界史」という考え方を理解し、説明できる。
- ・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。
- ・現代の課題を明瞭に指摘できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

#### テキスト

特になし

#### 参考書

- (1) Itagaki, Yuzo 「Middle Eastern Dynamics of Identity Complex: A Teaching Scheme with Illustrational Materials」 『日本中東学会年報』16巻、2001年。
- (2) 三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016年、文藝春秋。
- (3) 家島彦一『イスラーム世界の成立と国際商業-国際商業ネットワークの変動を中心に』1991年、岩波書店。
- (4) Geertz, Clifford. 1979 “Suq: the bazaar economy in Sefrou” in 『Meaning and Order in Moroccan Society.』 (C. Geertz & Geertz. H eds., ), Cambridge University Press, London.
- (5) ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987年、リプロポート。
- (6) エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986年、平凡社。
- (7) 川田順造『口頭伝承論（上）』2001年、平凡社。
- (8) 水野信男・西尾哲夫・堀内正樹（編）『アラブの音文化-グローバル・コミュニケーションへのいざない』2010年、スタイルノート。
- (9) 堀内正樹「境界的思考から脱却するために-中東研究がもたらすもの」 『国際文化研究の現在』（成蹊大学文学部国際文化学科編）2005年、柏書房。
- (10) 堀内正樹「世界のつながり方に関する覚え書き」 『成蹊大学文学部紀要』第49号、2014年。
- (11) 堀内正樹・西尾哲夫（編）『<断>と<続>の中東-非境界的世界を遊ぶ』2015年、悠書館
- (12) 西尾哲夫・水野信男（編）『中東世界の音楽文化-うまれかわる伝統』2016年、スタイルノート。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	地域理解トピックス（地元学実践演習）		
教員名	小田 隆史		
科目ナンバー	1101498010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>この授業では、地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を学ぶことを目的とします。地域を知るとは、社会の一員として、その地域の課題に気づき、解決のため行動したり、環境や災害などの観点から、持続可能な地域づくりに関わりをもつ主体になるためにも必要なことです。そこでこの授業では、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）を、わたしたちが生活する身近な地域や他の地域の事例（まちおこし、コミュニティ防災等）を題材として具体的に学びます。</p> <p>講師は、東日本大震災をはじめ、国内外の災害被災地の復興や地域防災について研究しており、そうした実践的テーマを扱うこともあります。主体的・積極的に演習に関わることができる学生の履修を歓迎します。</p>			

<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地図に関する基本的なことがらを理解し、説明できる。</li> <li>2. 関するさまざまな事象を地図化し、それを読みとる力を身につける。</li> <li>3. 地域活性化に役立つワークショップの手法を理解できる。</li> <li>4. 地域に関する資料を自ら作成し、それについて発表できる。</li> </ol>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	<p>1. 導入：地域を理解するために ここでは、授業のすすめ方について説明するとともに、この授業で学ぶ、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について概説します。</p>		
	<p>【予習】シラバスを熟読し、授業のテーマ・概要、授業の計画・内容を把握する。 【復習】授業のテーマ・概要、授業の計画・内容のほか、成績評価の方法・基準について、あらためて確認する。</p>		<p>【予習】30分 【復習】30分</p>
第2回	<p>2. 地図の利用（1） ここでは、地域調査において不可欠となる地図（地形図）について、その基本的なことがらを学びます。</p>		
	<p>【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。</p>		【復習】60分
第3回	<p>3. 地図の利用（2） ここでは、前回の授業をふまえて、身近な地域の地形図を用いて、実際に“地図を読む”作業をおこないます。</p>		
	<p>【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。</p>		【復習】60分

第4回	4. 地域に関する資料(1) ここでは、地域に関する統計資料について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第5回	5. 地域に関する資料(2) ここでは、地域に関する統計資料を整理し、加工する方法について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。復習テスト(第1回)にむけて準備する。	【復習】60分
第6回	6. 地域に関する資料(3) ここでは、身近な地域に関する統計資料を用いて、統計からどのようなことが読みとれるのかを、具体的に学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第7回	7. 地域活性化ワークショップ(1) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第8回	8. 地域活性化ワークショップ(2) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第9回	9. 地域活性化ワークショップ(3) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分

第10回	10. 地域活性化ワークショップ(4) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。復習テスト（第2回）にむけて準備する。	【復習】60分
第11回	11. 地域活性化ワークショップ(5) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第12回	12. 地域に関する文献・資料の探索 ここでは、地域に関する文献・資料を探索する方法について、担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第13回	13. 現地での調査（1） ここでは、地域調査のなかでも重要な、現地での資料の探索、インタビューについて、担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第14回	14. 現地での調査（2） ここでは、地域調査において重要な「歩く・観る・考える」の実践について、担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第15回	15. まとめ-地域調査の重要性- ここでは、この授業で学んできた、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について、その全体像・重要なポイントをあらためてまとめます。	
	【復習】この授業で学んできた、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について、ノートなどをもとに、あらためて確認する。	【復習】60分

#### 授業の方法

授業は、講義と実習（授業中に、もしくは課題として、各自でおこなう作業）を組みあわせつつ、展開される予定です。受講者との双方向性にもできる限り配慮します。授業中に、もしくは課題として、各自でおこなう作業については、指示にしたがって、指定された日時までに必ず終わっておくこと。

なお、授業の進度により、内容を変更することがあります。

#### 成績評価の方法

成績評価のめやすは、授業への参加（出席と発言）（80%）、その他レポート（20%）となります。

#### 成績評価の基準

成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。受講者は、各自でインターネットを利用できる環境を準備しておいてください。

※参加者の学年、関心等により内容を変更して実施します。

#### テキスト

授業の進行にあわせて、関連する資料を配付します。授業に関する連絡は「SEIKEI PORTAL」を活用します。

#### 参考書

必要に応じて、関連する文献を紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業内容に関する質問などについては、毎回、授業の終了後、教室において対応します。

科目名	地域理解トピックス（地域づくりの時代）		
教員名	小金澤 孝昭		
科目ナンバー	1101498020	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要	
<p>①テーマ「地域づくりと地域調査の実際」          ②概要 地域づくり・地域活性化は、古くからのテーマだが、最近では社会の変化に応じて地域づくりの方法も変化してきた。地域経済・地域社会の活性化は、雇用の確保、人口の安定、社会・生活条件の整備が確保されることから始まる。この講義では、雇用、人口、生活の3つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、都市地域（大都市・地方都市）、人口減少地域の4つを取り上げた。</p>	

到達目標	
<p>地域づくりの柱である雇用の確保（産業振興）、人口の安定（定住人口＋交流人口）、生活条件の整備（地域資源・環境＋社会資本）とは何かを理解することである。また、地域問題のキーワードの理解と、地域調査分析の基本的な技法（主題図作成、統計分析、地域調査方法の手順）を理解する。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>はじめに            『地方消滅』に代表される現在の日本が抱える地域問題として、この講義では①東日本大震災の被災地域の抱える問題、②大都市部の高齢化問題、少子化問題③地方都市の問題、④「限界集落」を含む人口減少地域の人口問題の3つを取り上げる。この3つの問題を①地域問題の確認作業の方法②地域調査の方法③地域づくり・地域活性化の方法から把握し、その実際を解説する。</p>	
	復習 講義内容と、基本資料についての理解内容をワークシートにまとめる。	40
第2回	<p>I部 被災地域の復興            ①津波の被害の地域差：            宮城県内のリアス地形地域、遠浅海岸地域、海岸地域での都市化地域における被害状況の地域差の実態とその要因について考察する。気仙沼地域の被災地域について地図作業を行なう。</p>	
	復習 地図作業による久一致期の範囲の確認	40
第3回	<p>②気仙沼地域の復旧復興の方向について考える。            ここでは、気仙沼地域の産業振興による復興を事例にする。この地域の産業振興の対象は、水産業と観光産業である。産業振興を産業連関という視点から進める場合の調査方法を学ぶ。また、被災地域の都市計画についても考察する。</p>	
	復習 気仙沼地域の復興について、テキストの論文を読み、ワークシートにその内容をまとめる。	80

第4回	<p>Ⅱ部 大都市の少子高齢化問題</p> <p>①少子・高齢化問題の構造</p> <p>少子高齢化社会とはどんな問題を抱えているかを明らかにする。人口問題としての少子。高齢化問題を分析する。人口減少の要因についても考える。また地域の人口問題をコーホート分析を利用して考察する。</p>	
	<p>予習 テキストの論文を読んで小レポートを作成する。</p>	60
第5回	<p>②都市地域の少子化問題の要因</p> <p>少子化の問題については、待機児童の問題を東京の事例から考察する。</p>	
	<p>復習 少子化と待機児童が生まれる要因について考察するワークシートを完成させる。</p>	60
第6回	<p>③都市地域の高齢化問題</p> <p>首都圏の高齢化の進み具合と、その地域の特徴について分析する。具体的には、昭和一桁世代とベビーブーム世代、第2次ベビーブーム世代の居住地域を比較しながら、高齢化の地域問題を考察する。</p>	
	<p>復習 首都圏の高齢化の地図を使って、ワークシートを完成させる。</p>	40
第7回	<p>④住宅団地の高齢化問題</p> <p>住宅団地の高齢化問題を、郊外に立地する東京の集合住宅団地を事例に分析する。方法としては、住民のライフステージに注目して考察する。</p>	
	<p>予習 前の講義で提起されたテキストの論文についてのレポートを作成する。</p>	40
第8回	<p>Ⅲ部 地方都市の少子高齢化問題(仙台)</p> <p>①地方都市の住宅地化、郊外化</p> <p>住宅団地の公害化と高齢化問題を仙台を事例に調査考察する。</p>	
	<p>復習 地方都市の高齢化の地図を使って、ワークシートを完成させる。</p>	60
第9回	<p>②都市の高齢化と買い物弱者</p> <p>都市部で生起している、買い物弱者問題や交通弱者問題を地方都市、仙台を事例に分析する。</p>	
	<p>復習 都市の少子高齢化問題のまとめについてワークシートを完成させる。</p>	40

第10回	③地方都市周辺の農業・農村問題 地方都市の人口問題と農業の王損の後継者問題について、東北地方の農業・農村を事例に調査考察する。	
	予習 前の時間に提起した論文についてのワークシートを完成させる。	60
第11回	IV部 人口減少地域～限界集落 ①限界集落とはどうして生まれるのか？ 人口減少地域はどうして生まれるのかを考察する。特に「限界集落」とは何かを講義する。	
	復習 講義内容をワークシートにまとめる。	60
第12回	②限界集落の具体的な問題は何か？ 福島県の西会津町を事例にして、高齢化地域の現実について、介護問題、人口減少、集落機能の低下などの問題点を明らかにする。	
	予習 地域の基本的統計作業を行なう。	40
第13回	③人口減少地域での地域政策 地方自治体の地域振興策として行なわれている、産業振興としての農業振興と誘致企業政策や情報受発信政策（ケーブルテレビ）の効果、交通インフラの整備（除雪、デマンドバス）等について検討する。	
	復習 講義内容のワークシートを完成させる。	40
第14回	④地域活性化の具体策 福島県の『大学生の力を活用した地域活性化策』の事例を使って、地域調査の方法や地域活性化イベントについて紹介する。地域振興を進める上でいかに交流人口をどのように増加させるかを、西会津町の上谷地区、富士地区、山浦地区を事例に検討する。	
	予習 講義内容の確認 テストの準備を行う。	60
第15回	到達度確認テスト この講義で何を学んだかを明らかにするテストを行う。	
	復習 不足している学習内容の点検	40

#### 授業の方法

基本的に講義形式で行うが、必要に応じて作業学習や討論形式の授業、ビデオ教材などを活用する。

#### 成績評価の方法

2回程度課すレポートや作業課題(40%)、期末試験(40%)、講義中の出席状況(10回以上の出席が前提)や発言、質問(20%)で評価を行う。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

地域活性化に関連する記事がたくさん新聞に掲載されるので、複数の新聞をきちんと読んでください。必要に応じてスクラップしておくとならば就活に有利です。

#### テキスト

テキストは、自主テキスト『現代の地域問題~震災復興・都市の少子高齢化・限界集落~』を使用する。  
入手方法については、講義中に指示する。

#### 参考書

これについては、講義中に指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。